福岡大学学術文化部会書道部

書心

荒鷲

合同機関紙

第9号
福岡大学書道部O・B書心会

第19号
福 岡 大 学 書 道 部

巻頭詩

精神がその救いを見出すのは
自分自身を振り返るという
幻影の追求によってではなく
対象を追い求め
それに力を注ぎ込む事に
よってである

発刊にあたって

19号

発刊にあたって

福岡大学書道部が誕生して十八年目を迎え、ここに機関「荒鷲」「書心」を併設発刊できますことは誠に慶びにたえません。

現在、我々は先輩方の確固たる基礎の上に着実な足跡を残すべく日々の活動に励んでおります。また昨年古田龍夫部長が退官されまして、本年度より経済学部小西高弘教授を新部長に迎え、部員一同新たな決意の基に結集し、一層の発展を目ざしております。一方、福岡学生書道連盟におきましても編集委員会、O・B書酔会が再興されまして連盟における我部の役割も大きなものがあると確信します。

現在サークルにおいても諸問題が蓄積されておりますが、この機関紙発刊にあたり再度部活動を考え直すことができますれば幸いと思います。

第十八代幹事　大山一則

目　次

巻頭詩 ……（表紙裏）

発刊にあたって …… 十八代幹事　大山一則　1

目　次 …… 2

貫くこと …… 書道部部長　小西高弘　6

部員諸君ー感謝の意を込めてー …… 前書道部部長　古田龍夫　6

中国・台湾の人の親切 …… 書道部講師　赤木石掃　7

書心会の動向 …… 書心会会長　柴田一夫　8

思い出 …… 三十九年度卒O・B　西　隆義　9

福岡大学在学中を思う …… 四十二年度卒O・B　平井晴彦　10

私の事など …… 四十四年度卒O・B　前崎恒春　11

さつき晴れ …… 四十六年度卒O・B　小野善廣　11

書心会ランナーとしての役割 …… 五十二年度卒O・B　永野雄二　12

奮　気 …… 法学部二年　久保山豪　12

大学生活に思う …… 経済学部一年　大家一之　13

呉昌碩について …… 薬学部二年　金丸祐恵　13

心を平和にもつこと …… 法学部四年　山口真由美　14

刹那を生きる …… 工学部三年　河野龍二　14

今、私の中で …… 経済学部二年　福田美由紀　15

今は、四月二十六日の朝一時十三分ぐらい …… 法学部一年　鶴田定司　15

書歴一年 …… 経済学部二年　原田　明　16

時には一人になって …… 商学部四年　堤　寛　16

情熱について …… 経済学部三年　岩野高利　17

書道部に入部して …… 商学部一年　原口豊子　17

大学生活の中の書道部 …… 経済学部二年　松永義城　18

歓 …… 法学部四年　小柳智香子　18

書歴一年 …………… 経済学部二年 原田 明 16
時には一人になって …………… 商学部四年 堤 寛 16
情熱について …………… 経済学部三年 岩野高利 17
書道部に入部して …………… 商学部一年 原口豊子 17
大学生活の中の書道部 …………… 経済学部二年 松永義城 18
歓 …………… 法学部四年 小柳智香子 18
書と自分 …………… 商学部二年 吉富利栄子 19
大学に入って …………… 工学部一年 田中基文 20
人は人、俺は俺 …………… 商学部二年 田中孝路 20
書道方程式 …………… 理学部一年 十代田雄治郎 21
道 …………… 商学部三年 高原美登里 21
書について …………… 経済学部二年 明神唯司 21
ただ生きるのではなく …………… 商学部一年 鶴岡英子 22
好きな人〃長嶋茂雄〃 …………… 法学部三年 米島邦章 22
書について …………… 工学部二年 城 芳治 24
入学そして入部 …………… 工学部一年 佐藤雅秋 24
分岐点に臨んで …………… 法学部四年 結城 健 24
人間形成に思うこと …………… 商学部三年 鹿毛博郁 25
人間形成の手段としての書道 …………… 理学部二年 郡 桂子 25
原稿を通じて …………… 経済学部一年 重松裕人 26
下宿生活のPARTⅢ …………… 経済学部四年 嘉村浩之 26
桜の季節 …………… 法学部二年 横山久子 27
欧州珍道中 …………… 経済学部四年 高尾康弘 28
思い付き …………… 工学部三年 河野清文 28
ひとり芝居 …………… 法学部二年 上田信一朗 29
もし僕が …………… 経済学部四年 高田直記 29
一人旅 …………… 工学部二年 島村友博 30

書道部の入部にあたって …… 経済学部一年 酒井昌弘 31
書道を志す者として …… 商学部二年 桑原淳一 32
春に思うII …… 商学部二年 八谷俊彦 32
書道部に入って …… 法学部一年 城　弥生 34
書道と私 …… 薬学部二年 門田孝志 34
自己主張とコントロール …… 経済学部三年 大山一則 34
僕と書 …… 理学部二年 木谷利文 35
入部に際して思うこと …… 商学部一年 古賀直彦 36
ひとりごと …… 経済学部四年 飯尾裕美 36
私の一年間 …… 法学部三年 川原清美 36
書道部に入部するまで …… 経済学部二年 桜井　典 38
不思議な力 …… 商学部四年 八尋厚子 38
書と現在の私 …… 法学部三年 吉田富美子 38
つれづれなるままに …… 商学部二年 扇　寿美子 39
私にとって書道（書道部）とは …… 理学部三年 吉武良子 39
二年目を迎えた〝今〟 …… 商学部二年 寺尾孝祐 40
大学に入学して …… 経済学部一年 丸野　徹 40
二年目 …… 商学部二年 原　千尋 42
書道部に入部して …… 人文学部一年 三小田佳子 42
若い時は嵐!! …… 経済学部三年 松田一寿 43
なぜ？何のために！ …… 商学部一年 成田睦子 43
翔ぶ …… 法学部二年 村瀬和美 44
一度クラブの練習をやってみて …… 法学部一年 松尾幹雄 44
九書大会代表者会議に出席して …… 法学部二年 高橋峰生 45
今まで、そしてこれから …… 人文学部四年 木村直子 45
俺の油山 …… 工学部二年 森田健二 46
新入生プロフィール …… 46

[illegible] …… 法学部二年 村瀬和美 44
一度クラブの練習をやってみて …… 法学部一年 松尾幹雄 44
九書大会代表者会議に出席して …… 法学部二年 高橋峰生 45
今まで、そしてこれから …… 人文学部四年 木村直子 45
俺の油山 …… 工学部二年 森田健二 46
新入生プロフィール …… 46
吉田部長退官謝恩パーティー報告 …… 48
春季合宿報告 …… 49
書心会規約 …… 53
O・B住所録 …… 55
書道部規約 …… 68
役員名簿 …… 73
編集後記 …… 74

貫くこと

書道部部長　小西高弘

「初志不可志」という名言があります。人間は誰でも、一度や二度は、志を懐くものですが、いつしか、それを忘れて生きています。いな、忘れないまでも、志を達するまでの、修行、努力を、怠って、不満な日々を過していています。何事においても、志を持って貫く勇気が、ほしいものです。論語の一文に、「子夏曰、博学而篤志、切問而近思、仁在其中矣」（子張第十九）とありまして、志をもって学び、問ひ、考えていくことの大切さの中に仁（人間の愛）が存在すると述べています。

私達が、この学園で本当に人間らしい人間＝人格を形成する為には、この一文をしっかりと心に刻む必要がありましょう。

しかし、仁の道・人格の形成は決して容易ではありませんが、決して不可能ではありません。同じ論語の一文に

「子曰、仁遠乎哉、我欲仁、斯仁至矣」（述而第七）といって、仁を求める心あらば仁者となる、いな仁者となる努力を奨励しています。

私達はお互いに協力し、練磨し、真の自己に目覚め、豊かな人生を築きたいものである。

学生諸君の情熱と努力を切に望む次第です。

部員諸君へ

―感謝の意を込めて―

前書道部部長　古田龍夫

私は、本年の四月で停年となり、書道部長を小西先生と交替することとなった。新任の先生を迎えて書道部が益々発展して行くのを思い、私は、喜びで一杯である。

今、ペンを執れば、本学在職三十年の歴史と書道部長を勤めた十余年間のことが一度にパッと浮んでくる。

本学は、福岡経済専門学校と福岡外事専門学校とが合併して発足したものであるが、それぞれ独自の歴史を持つこのような私学の合併は、当時に於いて、一般に至難のこととされていた。しかし、本学の発展の為には、この合併は、至上命令であった。それが成功したのは、両校の職員の智脳を絞った日夜を分たぬ、ひたむきな交渉の努力があったからこそである。そして、本学の発足当時は、全学の教職員百三十名足らずであったのが、今日の大を成したのである。

本学の指導理念は、この建学の歴史の中に求められる。まず、本学は、官学と異って政府の権力に頼らず、また、他の多くの私学のように学外の特定の財力に頼らず、本学の自力によって今日に至ったのである。したがって、本学は、政府の権力に対して、また学外の財力に対して自由である。しかし、学外の何人にも依存しないのであるから、大学が自らの運営を一歩誤れば、このような特自の性格を持つ大学は、必然的に崩壊する。即ち、学内が一致結束して、各自は己を棄して大義に就くことが、絶体的要請となるのであって、全員がこの要請に応じたからこそ今[illegible]。そして、これが本学の伝統的な指導理

中国・台湾の人の親切

学生諸君の情熱と努力を切に望む次第です。

たがって、本学は、政府の権力に対して、また学外の財力に対して自由である。しかし、学外の何人にも依存しないのであるから、大学が自らの運営を一歩誤れば、このような特自の性格を持つ大学は、必然的に崩壊する。即ち、学内が一致結束して、各自は己を棄して大義に就くことが、絶体的要請となるのであって、全員がこの要請に応じたからこそ今日の本学の大を成したのである。そして、これが本学の伝統的な指導理念となっている。

人間は、冷たい心で孤立しては、何の生甲斐もなし、また、何事をも成しえないということを本学の歴史が教えている。

このことは、書道部についても同様である。先輩の部員諸氏がこの精神の下に努力を重ねられたからこそ今日の書道部長の十余年間は心温まる日々であった。心から感謝する次第である。

私は、書道部がこの指導理念の下に益々栄えて行く事を念願してやまない。このような生活部面をも持つということが、大学生活たる所以であるからである。

中国・台湾の人の親切

書道部講師　赤木石掃

北九州中間市のある眼科医から墓石の字を依頼され、その御礼にと、台湾に招待されることになった。三月二十一日から三泊四日の旅である。目的は、蒋介石総統が軍艦四隻で運んだと言う故宮博物館の書と、歴史博物館の見学であった。

私は、旅行が嫌いと言うことにしている。一泊二日の旅行ですら、実行不可能な日程である。勿論、一泊以上の出張や職員旅行はなるべく断わることにしているのだが、今度ばかりは故宮博物館の書の見学招待だから、断わるわけにいかない。三月の指導日程を、この旅行の為に犠牲にしての大決心のいる実行なのだ、だから、出発の日迄何回かこの計画の廃案を試みた位だった。こうして、やっと台湾に飛び立つわけだが、飛行時間僅かに二時間。パスポートから税関事務に至る迄すべて人まかせで、台湾飛行場には何の心配もなく降り立つことが出来たのだが、その瞬間、私は急に心細くなってしまった。まず、地理が全くわからない。市内地図すら、手にしていなかったのである。尋ねても言葉が通じない。出来るものなら、すぐ飛行機で帰りたいような気持ちである。やっぱりツアーでガイドつきで来るべきだったのであろうが、ツアーでは、自分の思うような充分な時間が博物館ではとれない。そして、ごくあたりまえの土産物買いの観光客になりはててしまう。私達夫婦は、よそめにも、みすぼらしいあわれな老夫婦になって、タクシーにのりこんだ。時恰も

台湾は梅雨である。この三か月の梅雨がすぎると、この雨は日本の梅雨になるのだろうと思うと、又何とも親しみを覚えたものだ。雨が垂直に落ちてくる。細く短かく、からっとした雨だ。日本の梅雨のようなじめじめさは全く感じられない。その雨の中を二輪のバイクが群をなして働きまくっている。雨を意識していない感じである。この雨は、強くもならず弱くもならず、淡々と四日間降りつづいた。こんな雨が三ケ月降っても苦にならないような親しみのある雨である。そして、タクシーの中は、天井もシートも破れてまっ黒である。日本では地金になって売られてゆく車でも、こんなに使い古したシートはないだろうと思える位になっている。まったく、たくましい台湾の働きぶりを人と車で感じながら、台北市内に不案内な私共老夫婦?に救いの女神が現われた。

孔子廟で、カメラをあちらこちらにむけていた時である。何時のまにか、私に命令する男が横についているではないか、あの建物は新しいから写しても価値がないとか、この神様は写しておけとか。そして、断わる私共をタクシーにのせて、宋美令が建てたと言う巨大な国際ホテルに案内した。私は、この男がひょっとすると麻薬の仲買人で、私を日本への運び屋に仕立てる為の親切さなのではないかとさえ疑った。そして台北一の茸屋さんに迄、案内してくれた。夕闇の迫る頃、彼は奥さんに電話して待合せ、夫妻招待の夕食会を催してくれたのである。本当に見ず知らずの台湾の人が何故私共夫婦にこのような親切をしてくれるのであろう。この頃から私は、ボツボツ中国、台湾人としての彼に確信をもち始めたのである。

翌日彼は丸一日をつぶして、烏来と言う山水明美の地を案内し、夕方は、台北市内にもどり、日暮れまで歴史博物館の案内をしてくれたのである。更に驚いたことに、その晩彼は、今度は二十三才になる長男と奥さんの三人で私共を広東料理に招待してくれた。そして、その御長男さんは、英語ではなく、日本語の勉強をしていると言うことであった。

私は、書道をしていたおかげで故宮博物館を見学するという名目で、私共の御本家?中国の人の暖い心に接し得て、又中国書道の偉大さの一面を知り得たと思う。私共、日本人の経済的にのみ伸長し、この様な人の心を忘れているようだ。私は実によい教えをうけたことを一生忘れることは出来ないであろうし、又彼に恥かしくない日本人でありたいと心に誓った。

書心会の動向

書心会会長　柴田一夫

年度始めに当り会長としての所信を述べ、会員の皆様の御協力を、切に、御願い申し上げます。

今年一月の会員総会に於いて、再度会長に推挙され、気分新たに、会員相互の親睦と友情と団結を基本に任期中少しでも百年の大計の基礎の一節となればと思い一生懸命努力する覚悟であります。

幸いにして副会長に原博幸君、会計に山村昌次君、さらに参与として福岡大学職員の遠藤信広君の強力なスタッフの協力のもとに、二年間の御世話を承ります。

私は、以前から会員の整理を主張して来ました。卒業生を送り出してからすでに十六年、卒業生も百七十余名にものぼり、昨年の古田部長退官

謝恩パーティー準備協力金参助者数七十二名、五十二年度会費納入者三十四名と会員の五分の一にすぎません。その為、会費の約三十パーセン

ありませんか。

皆様方の御協力をお願い致します。

翌日彼は丸一日をつぶして、鳥来と言う山水明美の地を案内し、夕方は、台北市内にもどり、日暮れまで歴史博物館の案内をしてくれたので

御世話を承ります。

私は、以前から会員の整理を主張して来ました。卒業生を送り出してからすでに十六年、卒業生も百七十余名にものぼり、昨年の古田部長退官謝恩パーティー準備協力金参助者数七十二名、五十二年度会費納入者三十四名と会員の五分の一にすぎません。その為、会費の約三十パーセントが通信費です。これでは書道部に対しても何の援助も出来ないし、又、会独自の活動も休眠状態です。そこで私は、会員を登録制に切り替え、会員として活動する意思のある人のみで書心会を結成したいと思いますが如何でしょうか。しかし、一方的に退会をすすめるのではなく、次に述べる評議員に諮問して決定致したいと感えます。

会員の年代に幅が出来ると役員だけで全会員を掌握することは不可能ですから、早期に一期か二期に一名の評議員をお願いしてその年代の世話役になっていただきたいと思います。評議員は、役員に準ずるもので書心会の運営に意見を反映出来るものである。

このように評議員を軸に書心会を「やる気」のある同志で運営して行きたいものと思っています。

会員が社会人である以上、個人の責任範囲は自ら自覚しておられることでしょう。個人個人の自覚と責任のもとに、書心会を全員で盛り立てようではありませんか。一人でも多くの方の再登録を希望します。

永年に渡り書道部の部長としてお骨折りいただきました古田部長の後任に、新進気鋭の経済学部教授の小西先生を迎える事が、出来ましたことは、書道部は勿論の事、書心会も心から歓迎の意を表するものであります。

小西部長は、福岡大学卒業の生粋の福大っ子で、福大卒業生教授第一号であります。このように将来を属望された先生に、無理なお願いを快く御引受けいただき幸に存じます。

今後共、新部長と共に書道部、書心会が一丸となって邁進しようではありませんか。

皆様方の御協力をお願い致します。

思い出

三十九年度卒業　西　隆義

月日の経つのは早いもので、卒業以来十三年を隔た今日、会社で、家庭でと、毎日もまれ、ゆっくり昔を懐しむ暇もなかった。この機会に久し振りに、懐しく又、楽しかった色々の出来事をアルバムを開いて、思い出してみた。

赤木先生の勇ましい半ズボン姿や、マイカーのはしりとも思えるスバル、ブルーバード、クラウン等。原先輩の原始的ポンコツバイク。これは大変なもので、ヒモを引張って、エンジンをかけ、あとはアクセルとブレーキだけの極めて、単純なものでした。大橋幼稚園での県展出品の為の合宿。県展出品はこの頃です。野田先輩、安河内らが初期で、その後は入賞者がどんどん、出ていると聞いています。四、五人の合宿で、おまけに夏ですから、パンツ一枚での練習姿は、他人には見せられるものではなかった様です。連盟の旅行や、錬成会にも、よく行きました。フォークダンスが楽しみで、女性の手を握ったのは、この時が初めてで、最初は手に汗が、じっとりと出たのを覚えています。西日本揮毫大会の準備で、後援団体を三拝九拝して廻った事。七限の二、三の池が凍って、長靴で氷の上を走り廻った事。青藍社の合宿を、那ノ津荘まで見学に行った事。友泉亭の友人の家に、よく泊りに行ったこと。(当時は友泉亭は、まだ片田舎でした。本人は郊外と言っていた。)色んな、思い出の中で、

今、思い出しても不愉快になり、憂つになる思い出もあります。先輩には、叱られるかもしれませんが、毛筆、硬筆の争いです。力不足で、解決出来なく、回りの人達の所へよく古談に行ったものです。

当時の部員は四十名程で（私が四年の時）現在はその三倍位は居る事と思います。現在の部員を抱えていたら、どんなに揉めた事でしょうか。

今、考えてみて、学生時代、学生々活の中から書道活動を除いたら何が残ったであろうか。書道以外の思い出と言ったら下宿生活だけである。それ程、書道と書道部に関した事があまりにも多い。しかし、おかげで今日も書という趣味を持ち、苦しい時などそちらの練習などしたり、書籍を開いたりして過ごすことが多い。しかし、なかなか上達しないのは、私だけかな。

福岡大学在学中を思う

四十三年度卒業　平井晴彦

私が福岡大学に入学したのは、昭和四十年です。現学舎、現施設は医学部の創設、特別グランドの設置など在学中には想像もつかない程のキャンパスに驚くばかりです。私達は当時、敗戦後第一期ベビーブームと言われた時期で大学入学者は前年に比べて飛躍の進学率でした。また書道部の入部者も三十人程（部創立以来最高）のものでした。日本間道場の使用も我々の時から始まりました。部の運営は、学生自ら計画し運営実行していく活動姿は、高校生のように教師の保護監督の上で活動するものの「部」とは本質的に違うのだなあと思いを新たにしたり、自分自身も将来思う存分活躍したいものだなあと実感を持つものでした。それというのも専門学科があまり得意ではなかったというのも理由ですが、何か一つ得意なものを身につけて卒業しなくては、大学まで進学した意味がなかったのです。当時は、まだ進学するより就職した方が良いといわれた時でした。何か自分に一つの特徴を付けねばと非常に焦りを覚えた時期でした。その一年生後期に福岡学生書道連盟事務局次長に推挙していただき他大学の方々と接し書を語り人生、将来を語り御指導を受けられた事は、部内の赤木先生、先輩諸氏、友人の方々の御心こもる御指導、御助言にも劣らない貴重な教重となるものと実感するものでした。「少しばかりの書の上手にうぬぼれるな。世の中をもっと見つめろよ。人と数多く交際し知識を学ぶんだ。書は人間の歴史と共に生きて来た芸術ではないか。人を嫌うことなく書に接しなければいけないのだ。」という明訓の源に福書連を創立された人々の偉大さに深く感銘し同時に組織を永久にくずしてはいけないと思いました。そして幸運にも事務局長、運営委員長を経験させていただき今もなお連盟員の方々から結婚式に御招待いただく御友情を深く感謝致しています。

「世の中に同じ心の人もがな
　草のいおりにひと夜語らむ」良寛

良寛の時代にも、「世の中に同じ心の人」がいました。「今の世にも同じ心の人がいます」実に有り難く思います。お互いにこうしたものをもっともっと大切にしなければいけないと思います。現世がどうした、物質文明がこうなると言う声を聞きます。確かに、一理でしょう。しかし昔も今も天心の月を見るような清い心を持った書を書く我々。「同じ心の人」はいつの時代にもいるものです。それが生きる「しるし」であり生きる力の源泉だと思います。源泉でありたいと念じています。「大学の心、学問の心、書道部の心、福書連の心、書の心…………。」このこ

ど足許へも及ばない、崇高な美しさと慈悲を湛えています。

ものの「部」とは本質的に違うのだなあと思いを新たにしたり、自分自身も将来思う存分活躍したいものだなあと実感を持つものでした。それの心、学問の心、書道部の心、福書連の心、書の心………。」このことを考えながら永い生活を平和で暮せるよう導いてくださいましたのが大学生活でした。現学生の皆さま、書心会員の皆さま、書酔会員の皆さま、多くの人との接点を益として生き甲斐のある人生を過そうではありませんか。

私の事など

四十四年度卒業　前崎恒春

私は今、顥南（こうなん）という雅号で書の仕事をしています。学生時代は恒南（こうなん）でしたが、三年くらい前に変えました。今思えば、恒から顥に変ったのは雅号だけでなく、私自身もいくらかまた変った様です。

恒南の時に書きたかったものは、より絵画的な美しさを持った書でした。その為には文字や言葉は、どうでもよいただの材料でした。ところが今では、柳宗悦に導かれ、書は、感動した言葉や己の意志を伝えるという文字本来の性格を忘れてはならない事や、正しい文字の追求によって自然と生まれて来るものが、普遍的な美しさである事を知らされました。その事はまた、秋草道人の書論によっても確信を得ました。

その様な事から最近は、純粋美を追う近代の芸術家の仕事より、必要から生まれた昔の職人の仕事に、大いに憧れています。例えば建築や彫刻など、奈良を旅すれば如何に昔のものが堅牢で美しいかがわかるでしょう。法隆寺、唐招提寺、その他の寺々は、一人の芸術家の思いつきでなく、大勢の腕ききの職人達の精一杯の仕事の積み重ねによって生まれたものでございましょう。また弥勒菩薩や百済観音は、現代の彫刻家などと足許へも及ばない、崇高な美しさと慈悲を湛えています。

絵もまたそうです。中国の画像石や古代エジプトの王室の棺の美しさには、偉大なピカソも天才棟方志功もかすんでしまいます。

そして書、これは皆さん方、日夜努力を重ねておられるから、私が改めて述べる必要もないかと思います。ただ私は、もし今、王鐸の長条幅と張遷碑の拓本のどちらか一つが戴けるなら、躊躇なく拓本を選ぶでしょう。

昔の名もない人々の仕事には、威張ったり、誇ったりしたところがなく、無駄な遊びもありません。ただ自然に生かされた無事な姿があるのみです。今、私はそんな仕事に少しでも近づきたいと願っております。

さつき晴れ

四十七年度卒業　小野善広

先日、書心会事務室長より原稿の依頼が来た。私にとって、この様に文章を書くのも数年ぶりである。考えてみると卒業以来、もう六年もの歳月を経ている。五月の初めに新幹線の中で学生が五、六人大いに騒いでいた。別に不愉快でも何でもなかったが、私にもああいう時代もあったのかと思うと、実に滑稽な気がした。今や三十に近い二十代ともなるとそういった機会が少なくなるものだ。だからこそ、その様な学生を見ると学生だった頃の出来事が思い出される。合宿に向う汽車の中での一コマとか……。やはり学生時代に残した思い出というものは、いつまで達っても消えずに頭の片隅に残っているようだ。別に日常生活の中で、その時の事が浮んで来るというのではないが、友と酒を飲み、話をする

と必ずといって良い程、昔の思い出話に落ち着いてしまう。それぞれが卒業以来別の道を歩いているのだから共通の話となるとそうなるかも知れないが、本当に懐しいものである。昨年の十一月に、四十七年に卒業した連中が六甲の有馬温泉に集まって、数年越しの同窓会を開いた。誰が言ったか解からないが「世讃会」なる名前が付いている。四十三年の入学であるのと同時に 世を讃える会 である。中には仕事の都合等でどうしても出席出来ない者もいた。卒業して全員集まるというのは、かなり不可能に近いけれども、どうにか都合をつけて、東京、名古屋、福岡、佐賀、長崎から六甲を目指して集まった。集まって何をするかと言えば、温泉につかって、酒を飲みながら昔話をするぐらいであるが、こういった機会の少ない私にとっては、学生時代に戻ったような気分で無礼講どころか、言いたい放大である。久し振りの楽しい一泊二日の旅であった。又、数年後にも、こんな機会を持ちたいものだ。それ故に、私の青春の一ページを残してくれた書道部や友の有難さを思うと、同時に、

「俺は友には負けるものか」

良きライバル〃友〃よ、健康であれ！

書心会ランナーとしての役割

五十二年度卒業　永野雄二

水がなくなれば、魚は生きて行けませんし、空気がこの地上からなくなれば、私達は誰一人として生きて行けません。福大書道部が、私にとって空気の存在と化しているのも事実です。それはおそらく、大学のサークル活動が利害関係の伴わない純粋な人間関係にあったからだと思います。私自身、恵まれ過ぎるくらいの友を得て、共に喜び、泣き、友情を確かめ合いました。

人は、色々な形態で集団をなし、又集団生活を行なうことにより、自らの環境を作り出しています。その産物として、知識、技術がこれまでの積み重ねの結晶としてある訳です。私達は、先人が残した知識、技術の中から、それぞれの分野に於いて、一番大切なものを正確に、しかも、しっかりと受けつぎ、発展させ、次の人に引きつぐ義務を負っています。言ってみればマラソンです。全ての人は、その長いマラソンに与えられた距離を、確実に走ることだと思います。このマラソンに於いて、前のランナーからたすきを受け取り、自分の距離を全力あげて走り、次のランナーに渡す。つまり、各自が、それぞれの分野に於ける産物を、次のランナーに引きつぐことを見事にやり遂げれば、よりよい方向へと事は運ぶ筈です。

現役とO・Bとの関係も同様で、それぞれの立場を理解し、役割を認識することが、必要不可欠なことだと思います。いつかは、ゴールに達するというような走り方では駄目です。

一歩一歩がゴールであり、一歩一歩としての価値を持たなくてはなりません。

兎に角、皆さん頑張りましょう。

奮気

法学部二年　久保山　豪

講義の合間に芝生に寝そべって空を見あげると、雲がゆっくりと流れ

ている。松尾芭蕉ならずとも、片雲に誘われて、旅にでも出たいくらい最高の天気だ。油山の全景が、僕の旅心をかりたてる。いつの頃からか僕は、衝動にまかせて旅をすることが楽しみの一つになった。衝動にまかせて旅をするといっても、やはり生活の中のあわただしさや、煩しさなどのうっぷんがたまった時に、ふと旅に出ることが多い。旅先も、観光地と名のつくような所を、文明の利器に身をまかせて忙しく回るのでなく、気のむくまま、足の動くままに、トボトボと歩いていく旅である。大自然の中に身をおくと本当に気分が落ち着くし、そして又自分自身を違った観点からみつめ直すこともできる。集団社会の中で生活していると、ままならぬことばかりある。そんな時、自然の草花は、いらだった神経を安らかにしてくれるし、山々は、疲れた体をしっかりと包みこんでくれる。人間というものは、目標に進んでいく上で様々な困難や障害に遭遇すると思う。石につまずき転んだ人間が、自分の力で立ちあがり、そして再び歩き出す姿は、一層大きく、そしてたくましく見える。何事も経験と思って、正面から気迫をもって、ぶつかっていこうと自分自身思っている。

viva、沖縄、八谷君!!

大学生活に思う

経済学部一年　大家一之

余裕のなかった?受験時代を、卒業して、今晴れて、大学生になることができました。高校のときとは、随分違いとまどうばかりです。今までは、「誰かがやって、くれるだろう。」とか、「俺には、関係ない。」とかいう甘い考えで、過ごしてきたのが、大学では、なんでも自分から積極的に、やらねば、ならないのが、高校との大きな違いです。

今の学生（自分も含めて）の中には　ただなんとなく　過ごしている人が、少なくないと思います。ここで、新しい生活を、迎えるにあたり、今までの考え方を返上して、人生の中で、最も貴重な青春時代に、思う存分活躍し、充実した毎日を送り、勉学にスポーツに、またクラブ活動に思い切って過ごすつもりです。

呉昌碩について

薬学部二年　金丸祐恵

今までに私が取り組んできた作品は、九成宮や集字聖教序といった、比較的作品化しにくい物でした。

呉昌碩に取り組みだしたのは、去年の十月くらいからで、途中に冬休みや春休みなどがあって、それほど練習はしていませんが、今ツーではありますが、呉昌碩の「おもしろさ」といったものがわかるような気がします。線について言いますと、たいへん力強い線があるかと思うと、意外とやわらかい線があったりします。この書の特徴は、（私だけが感じるのかもしれませんが）黒と白の調和のすばらしさにあると思います。そういった点で、作品化しやすいように思われます。

呉昌碩を書くときにいつも注意していることは、黒と白の調和を取ることが一番の目的ですが、そのためには、黒を紙のどの部分にもってきて、白をどの部分にもってくるかということです。先生がおっしゃったことですが、二字大きく太くかいて、一字ちいさく細く書いてみるとい

ったふうにやってみたり、また、自分で好きなように、この字はちいさく書いてみようなどと、遊び心をもって試行錯誤的にやってみるのが、なかなか楽しくて意外に作品化されるような気がします。

まだまだ私の書は、（書というのがはずかしいけれども）未熟ですが、少しでも呉昌碩の作品を学ぶことによって、書くことの楽しさが得られればと思っています。勿論、書がうまくなることも大切なことと思いますし、作者について知ることもわすれてはいけないと思います。

心を平和にもつこと

法学部四年　山口　真由美

心が平和でない原因はいろいろあるが、毎日いらいらして心が、おちつかないことがある。例えば、友人たちが望み通りの就職をしていくと、きっとあせる気持ちになるだろう。あせれば自分の生活の事情や自分のもっている能力にそぐわない無理をする。けれどそれに気づいた時は、生活の歩調を落さなければならない。人間は各々身についた自分に適した歩調がある。考え方、才能、人生の目的どれも違うはずである。何か自分の思うようにならないことがあると人生をあせる気持ちになるが、あせる必要はない。人生は与えられるものではない。自分の要求に基づいて自分に価値あるように生きるだけのことである。昨日より今日、今日より明日と進歩していくことではないだろうか。私たちはまだまだ未完成である。何事もこれからである。

今、四年生になってこんな事を考えています。私は私に適した歩調で堅実に生きて、そして、心を平和にしていたいものだと……。

刹那を生きる

工学部三年　河野　龍二

大学生活という大きな川にのめり込んで、何の目的意識もなく、日々を暮らしている学生をかなり回りに見る。毎日毎日、マージャン、パチンコに通っている姿を見ていると、はたして彼らは何の為に大学へ来ているのであろうかという疑問がわくのである。卒業して、四年間を振り返ってみると、何もなく、空白な時が過ぎてしまっているように思えるのではないだろうか？遊び暮らして、楽しかった事、おもしろかった事など、人間の脳裏には、鮮明には残っていないものである。例えば、自分自身、小・中・高校と振り返ってみて、教わってきた先生だが、やさしい先生は、その時は良い印象があるのだが、今は、さほど痛烈な印象は残っていない。しかし、厳しくて、辛く当たる先生ほど、今考えて見ると、良い先生だったんだなあと思うのと同じ事が言えるような気がする。

苦しくてどうしょうもない時の事が、ああ懐しいなとしみじみと思えてくるのである。苦しめば、苦しむほど、後の喜びは大きなものになるにちがいない。

また、人間にとって、どんなに忙しくとも充実した日々を送れるという事が、最大の喜びではあるまいか？その過程において、刹那、自分自身の言動を戻り見、自己をコントロールして行く精神回路が必要になって来るのである。

一日でなく、刹那を精一杯生きて行きたい。

今、私の中で

経済学部二年　福田美由紀

大学に入って二度目の春……ああ、なんと一年経つのは早いことでしょう。今も、瞼の奥に数々の思い出が走馬燈のように廻っています。一年間の出来事のすべてが思い出となった今、思います。書道部は素晴らしいと。

そして、多くの愛すべき友との出会いを与えてくれた書道部に感謝します。

さて、近いうちにゼミコンパがあります。私が初めてゼミというものを知り、そして初めてのゼミコンパ……。期日を聞いて少々心にひっかかる。金曜の六時から。正直言って行きたい。そこで、どっちが徳かよーく考えてみた。固いことは抜きにしても、結局、行くのはやめました。お酒を飲むより、練習したいもの。人が聞くと笑うかもしれませんが、そう思ったとき何かしら、満足感と誇りで胸が一杯でした。今までの自分にない自分を発見したような……、捜し続けていたものが、微かに見えたような、そんな気がします。そして、私は、まだはっきりと見えない目標を見定めるために、また、ゆっくりと歩き始めるのです。

今は、四月二十六日の朝一時十三分ぐらい

法学部一年　鶴田定司

今日は、スト（たった一日か）があり休校、だから朝十一時半まで力

焼鳥

平ちゃん

市内西区南片江バス停前

TEL 801－6312

文具と事務用品；コピーサービス

モリヤマ

西区七隈4－4－22　七隈派出所前

TEL　871－7673

博多で一番安い

ラーメン 120円 弥太郎食堂

福岡市西区梅林2

一杯眠って、それから友達の部屋に行き世間話しをし、昼メシをすませ、又、己の部屋にもどりアポーンと天井を見ている。何を考えているということでさえ考えたくない。昼三時を過ぎると必殺チキンラーメンを食べ気分的に満腹して、今度、壁を見ながらポケーとしている。そして知らぬまに寝てもう六時。夜メシをすませ風呂に入り、ドリフターズの大爆笑、プロポーズ大作戦を見てボヤーとしていると……

今は四月二十六日の朝一時十三分ぐらい。オレは悩んだ。大事な青春をこのように過してよいのだろうか、やっぱり二十三日の決断は自分なりに納得している。福岡大学書道部バンザーイ。

書歴一年

経済学部二年　原田　明

この文を書くに当たり、入部以来書きだめしていた古い紙を取り出してみた。入部直後の字は、白い紙の上にみみずがはいずり回っている。この頃九成宮の四字を半紙に収めるのが精一杯で、よく手がふるえたのを思い出す。

次に学内発表週間に展示した九成宮、蘭亭をながめる。いくらかうまくなっている。九成宮では、鋭い線を出すため思い切って書き、蘭亭ではいかに紙を長く見せるかで苦しんだ。この批評会において、どちらも字が弱々しいと言われた。

この後半折に取りかかった訳だが、最初の頃の字はとても大きすぎて流れが全くない。合宿では集字聖教だけを書いたが、字に大小をつける事によっていくらか流れが出ることを先生から教えられた。しかし、この時も字の弱々しさを指摘された。七限祭では米元章を出品したが、この字の傾きをうまく半折に収めるのにはかなり苦しんだ。この頃から本当に書くのが楽しくなってきた様な気がする。

その後呉昌碩を書き続けているが、この字に限っては全くあきがこない。これより三行書きに移ったが、字が縮こまってしまって、何度か二行書きにもどってみたりもした。特徴は何よりも「黒」の強調であるが、一つ一つの字が全て同じ大きさになり全体を見て、まるでアクセントに欠けている。また字の積み方とねばりをいかにして出すかがとても困難である。いまだにそれはできないが、少しづつでも呉昌碩の面白さがわかってきているのは自分でもうれしい。

今後、もっと面白く興味のわく字にめぐり会うのを楽しみにして、〝今〟を精一杯書き続けたい。

時には一人になって

商学部四年　堤　寛

人間はいつも回りに人がいる。しかし寝る時、死ぬ時は一人である。僕は孤独はきらいだ。やはり甘いのであろうか。生まれてこのかた多くの人と出会い、多くの友達ができた。しかしあまり友達が多すぎるのも考えものである。あっちを立てて、こっちを立てぬわけにいかない場合が多く、その度に悩まされる。しかし、いつでも回りに友達がいるのは楽しいものだ。そこで僕がいいたいのは、回りにいつもいると思うと、自分にもう一つものたらない点があるのである。時には一人になって耐えていくべきなのであろう。人生はきびしいものらしい。苦・死につい

事によっていくらか流れが出ることを先生から教えられた。しかし、こて考えた事がある。その時、人間とは何とみみっちい考え方をする動物だろうと思った。初めて飛行機に乗って下界を見た時の感動、小さな人間、大きな自然、考えるのがアホらしくなってくる。自然とは、本当にすばらしいと思う。人間なんて本当に小さいもんだとつくづく思いました。

人の一生なんて、人との出逢いに始まり、出逢いで終るように思えて、一人一人との出逢いを大切に生きてゆきたいと考えます。自分が逢いたい時、いつもそばにいてくれる人、何も気を使わずに生きてゆける人、一そんな人との出逢いが、僕の人生を変えてくれるように思えます。僕が男であるため、男の親友は、いますが、女の子の親友とはむずかしいですね。何でも話せる人、話してくれる人、そんな女の友達がいても、おかしくはないと思うんですが。

たまに一人になって考える事はこんなくだらん事ばかり、つまらん男です。でも書道部は、考えられない程大きな物なんだなあ。たくさん勉強させられました。来年は、社会という怪物に食らいついて行かねばなりません。

とにかく皆さん、がんばって下さい。お先に失礼します。

情熱について

経済学部三年　岩野高利

「君に情熱があるか?」と問われた時、即座に「はい」と返事ができる人はすばらしいと思う。最近、考えるたびに、この情熱という二つの文字が、自分の心の中に大きなウェイトを占めてきたことを痛感する。そしてやっと自分にも情熱という木の芽が顔をだしてきたような気配がするのである。情熱、いいかえれば"燃える"という事は、人間の精神構造にとっては潤滑油であるに違いない。

しかし近年、三無主義の一角をなす"無気力"という言葉を聞くと、やはり自分の囲りにもそんな若者達が確かにいると思うのである。何の目的意識もない生活を送り、自分の持つ激しいエネルギーに気がつかず、可能性を試そうとしていない。そんな仲間からは抜け出さなければ、一番すばらしいこの時期が色あせたものになってしまいそうな気がする。自分の書いているこの文字に、一番励まされているのは他の誰でもない。自分自身であることがよくわかる現在、まだまだ自分という人間の狭さに、あらためて気がつくのである。燃える何かを見つけ、力の限り可能性に挑戦したい!!　今日この時、再び情熱という言葉を心の中で繰り返したい。

書道部に入部して

商学部一年　原口豊子

どうやら友達もでき、一応学校にも慣れてきたのでクラブに入ろうと思い、書道部に入部しました。初めて部室にきたときは男の先輩方が多くて、私みたいに小さい者が入っていいのだろうかと思ったくらいでした。それに練習を見ていたら、私の思っていた書道とはあまりにも違っていたので、これから四年間はたしてうまくやっていけるだろうか、という不安が多いにありました。でも、部室にいくたびに先輩方が声をかけて下さるので、今は書道部に入ってよかったなって思っています。

高校時代から、友人は多勢いて、休みになるといつも遊びにいくことばかりでした。しかし、何か一つの目的に対して、いっしょに一生懸命やるということは、なかったような気がします。書道部に入って新しい友達とも仲よくなれたし、これから四年間がんばって少しでも先輩方に、近づけるようになりたいと思います。
これからよろしくお願いします。

大学生活の中の書道部

経済学部二年　松　永　義　城

一年前、まだ大学に入ったばかりで何もわからずただ単に授業に追われる毎日が半年以上続き、そのころから次第に部活動への淡い期待をかけて入部する決心をしました。多分、そのころは四年間のうちに友達を一人でも多く作る目的が書技向上の目的よりも上回っていた感じがします。しかし実際入ってみると、部に慣れるということが一筋縄では解決できない決定的なハンディがあったことに初めて気付きました。つまり僕自身が途中から部に入ったことと、初心者で字に対する強いコンプレックスを感じたこと。又クラブのことが全くわからず、他の同級生がみんな上級生にみえて気軽に話ができなかったこと。しかし僕にとって、今度初めての大行事であった春季合宿においていろいろな討論を聞いてみて初めてみんなと同じスタートラインに並んだ様な気がします。最後に書道とは字の形ではなく、書く人の精神を白い紙にうまく表現することではないでしょうか。今頃何となく個性のある先輩方の字を見ながらそう感じる様になってきました。大学生活における書道部は今や僕にとってかけがえのない青春の一ページになりつつあります。

歓

法学部四年　小　柳　智香子

サントスをブラックで飲める時は気分もサワヤカ！　別にキリマンでもモカでも構わないのだろうけれどサントスが好きと思うと別のものはまずくて飲めやしない。サントスが好きな人がいるとそれだけで友達になれそう。そんな気分で素敵な人と巡り会って夜明けを忘れてしまう程話し込んでみたいと思う。色んな話を聞いてる内に彼の事好きになれるかも……彼が中身のないつまらない人間と言われる人間でも好きになれる。たった二十四時間しかない一日なのだから、いつの間にか一日が終ってしまっていたなんてつまらない。
一年の頃から大学の講義には魅力はなかったから毎日遊んでばかりいた私。この福大のものすごい人の中から気の合う仲間をさがすのは大変だけれど書道部があったから書にはあまり興味なくとも楽しかった。楽しければいい時期はあまり長くはなくて必死になって練習してたらそこで応援してくれる先輩がいてうれしかった。でもうれしさの中にうずもれてはいけない。できることならうれしいと感ずるその瞬間は少ない方がいいのかもしれない。つらいことときついこの中にうれしい楽しいことを見い出し思い切り感激したい。慰めなんて欲しくないというけれど慰めでも何でもいい。ささやいてくれる人がいればいいと思うほど自分をつき落としてみたいことがる。本当につらくて仕用がないとき私は笑えるだろうか。書道部のクラブ感なんて四年目にしていまだ解かりゃしな

いけどメンバーは一年単位で入れ変わり立ち変わり何かが違ってきているのだろう。そんな中で本当の己を見つけ出せたらそれは素晴らしい。…未知の彼女はぼくのいちばん好きなかたち人間であることの悩みからぼくを解放してくれたひと。

ぼくは彼女を見、それから見失う、そしてぼくはぼくの苦しみを甘受する。冷たい水の中の小さな太陽のように…………

書と自分

商学部二年　吉富　利栄子

入部して早一年、もう後輩を持つ身になりました。ほんと早いです。この一年間書道部の一部員として先輩について、時には失敗もありましたが、自分なりに頑張ってこれた様に思います。しかし書技面については、仲々思うようにいかず、真剣に悩んだ時期もありました。春休み前までは宋黄山谷を書いていましたが今はもっと他の法帖も書いてみたくなりいろいろと試みていますがなかなか自分に合う様な法帖が見つかりません。しかし、難しいながらも一生懸命やっているうちに自分のものにできることを信じて書き続けていこうと思います。自分に自信がないのは確かです。練習中でも友達の字がうまく見えて、つい筆を置くこともありがちです。何とかして、どうにかしてうまく書けないものだろうかといろいろ考えますが答えは練習のみ。あたり前のことです。

今思うこと、それは書技面については一年前の自分と全く変わりがないことに生活面とを比較して自分の努力が足りなかったためか、矛盾を感じられずにはいられないことです。

サンビリヤード

〒814　福岡市西区大字七隈11
工学部学舎北側　　TEL　871－4746

友泉の街にまたヤングの店ができます
なんと楽器店が、できるのです…お楽しみに!!

＊輸入盤＊
入荷

6月オープン

黒木書店・レコード・スタジオ黒木屋

Tel　871－3604　871－3229

大学に入って

工学部一年　田中基文

ぼくには人に言えるような特技や長所もなく、実際欠点だらけの人間なんです。性格が内向的であるために高校時代は友だちも少なく、ほんとシラケた毎日でした。自分でもこれではいけないと思いながらもなかなか実行に移すことができず、殆ど毎日が家と学校を往復するだけの単調な高校生活でした。出身校である白石高校は佐賀の田舎町にあって、環境は非常に良く騒音らしい騒音と言ったら学校の前の道を時おり通る自動車の音ぐらいなものでした。近くには山もあって、ロングホームの時間に自転車で出かけて楽しんだこともありました。学校の雰囲気は環境が幸いしたのか全体的にのんびりした感じで、進学校にも拘らず生徒の中にはガリ勉タイプの人は殆どいなかったようです。毎年行なわれる白校祭で、前夜祭には男子生徒だけが短パン一枚になって中央の燃えるたき木を囲んで夜の八時頃まで歌や踊りで騒ぎ合いましたが、この催しも去年で廃止されてしまい高校時代の良き思い出がなくなるみたいで寂しい限りです。

次に、大学に入ってみてキャンパスの広さと学生数の多い事には驚かされました。入学式後の混雑のひどさを今でも覚えています。又高校の時の教室に慣れている者にとってあの大教室を想像する事ができないと思います。しかし先生一人と多数の学生との授業では、学生にとって一方的な受け身の授業になるのではないかと思います。当分の間は慣れないせいもあって戸惑ったり時には失敗することもあるだろうが、学習や

クラブをとおして有意義な四年間を送りたいと思います。

人は人、俺は俺

商学部二年　田中孝路

これまでに中学の授業でしか筆を握った事がなかったし、字も極めて下手である私が、大学の書道部というところに入部して、はやくも一年が過ぎた。一年前、入部するにあたっていささか抵抗があったし迷いもあった。しかしあの時、「人は人、自分は自分」だと思って入部する事に決めたのを覚えている。

ところが、実際に練習をやっていくうちに周囲の人が書いている文字が、いやでも目に入ってくる。ただ見るだけならなんでもないことなのであるが、私も普通の人間、頭が働くというわけではないが、知らず知らずとまわりの人の文字と自分の書いたそれとを較べてしまう。その頃の私にとってそれを較べる事は苦痛であったし、その繰り返しは自信喪失へとつながった。

このような心境において入部する際に思っていた、「人は人、自分は自分」ということばを一時見失いかけた事もあったが、私にとってはその頃それが一番の救いのことばであった。

入部当初、私の書道に対する目標は「人並みに字が書けるようになる」ことであった。恥ずかしながら現在もまだその目標は相変わらずなのであるが、時に人のものと比較をして自分に刺激を与える事も忘れずに目標に近づいていきたい。

昨年よりも今日、そして今日よりも明日へと、頑張って行きたい。

書道方程式

まだ、歩き続ける。手には、風船を持って。風船は、風に流され、飛ばされることもある。だが、お前は、追い求めなければならない。しっか

書道方程式

理学部一年　十代田　雄治郎

書道部に入部して、白と黒の世界を、自分は、どの方向に進んでいくのか、まったく未知の世界そのものです。

今の自分は、初心者で、何も書かれていない白い紙に、本当に恐怖感を感じています。

その原因は、これまでにはこの白い紙に、いろいろな問題が書かれていて、その方程式を解くことに全力投球をしていましたが、その場合、始めからどう解くかが、わかっていたので、自信をもって解答を出して来た。

けれど今は違うのです。

白い何も書かれていない紙、しかもどうやって解くべきかという書道方程式の解き方は、まだ今の自分には、何の方法もない。

だから、この大学生活を送って行く中で、一つ一つ先輩に指導をしてもらい、自分で、書道方程式の解き方を研究し、自分でこの方程式の解答をみつけて行きたいと思っています。よろしく。

道

商学部三年　高　原　美登里

振り返ると、微笑がかえってくる。すべては、思い出。その時点では、下を向いてた私だけれど、今では、微笑となって、かえってくる。まだまだ、歩き続ける。手には、風船を持って。風船は、風に流され、飛ばされることもある。だが、お前は、追い求めなければならない。しっかり握りしめ、あの坂道を登らなければならない。いつしか、坂道は、お前に、快感と微笑を、かえしてくれるだろう。そして、お前は、忘れてはならない。この道で、巡り合った人達を………。

まだまだ、道は続く、お前の前にも、横にも。一歩一歩、踏み締めて、歩いて行こう、自分を見失うことなく、素直になって。

書について

経済学部二年　明　神　唯　司

書については、僕の場合、経験も少なく、また書に関する知識もほとんどもっていませんが、僕がこの白い紙に向かって思う書について書いてみようと思います。

僕が最初に筆をもったのは六才の時でした。それから十三才になるまでの七年間、習字を習ってきました。この間に習ってきた習字はただ調和や形を整えることを意識して書けば良かった様に思われます。しかし大学生になって初めて書道というものをやってみた時、今までの習字とは違って精神的なものの重さを感じました。

書道の練習で中国の古典書道を臨書している時、その法帖を見ているとその書家の血の通った強い精神力や鋭敏な神経や豊かな情緒を感じ、何か自分がその書家の生きていた時代へ引きずりこまれるような気がしてきます。

僕にとって書とは古いものへのあこがれの中でも古典文学などと異っ

て古人の感情の動き、その人の性格、どの様な生活をしていたのか、またどの様な容姿をしていたのかなど考えて、直接にその人の書をみることによって身近かなものに感じることが出来るものです。また自分自身が現在のあわただしい日常生活を送っている中で一時の安息の時をみつけて一人で紙に向かって筆を走らせることで真の自分というものをみつけて行くものだと思います。

今まで書いて来た事は書道をやって行けばやって行く程、その奥深さを知るというものを大学四年間で終らせることなく社会に出ても心のよりどころとして続けて行きたいと思います。

ただ生きるのではなく

商学部一年　鶴岡英子

「大切なことは、ただ生きるのではなく、よく生きることである。ソクラテス」

現在の私は良くもなく、悪くもなくただ漠然と生きているような気がしてもいやになる時が多い。そんな自分から早く脱出し、何か打ち込めるものを見い出したい、そして誰にも負けないくらい良い友人と思い出を作りたいと思いこの書道部へ入部しました。

字を書くのは苦手。でも「書」を鑑賞するのは好き。白い紙に黒の墨字がとても好きな私です。これから先、よろしくお願いします。

ふと見上げた空は
青くまばゆく輝いていた

ふと振り返って思う過去は
色あせて崩れていた

無気力の中を歩き
空白の時を過ごしていた

ふと見上げた空は
私の胸を突きさすように
青くまばゆく輝いていた

今
ふと見つめる未来に
一筋の長い道が見える

好きな人〝長嶋茂雄〟

法学部三年　米島邦章

今しかできない事、それは何だろう？　学生時代に……それは勉強クラブ活動、それとも他の何かかな。今の若さをぶつけるものの対象が人それぞれ違うと思う。

自分の置かれている立場、また自分を取りまく環境、本当に青春を実感として味わえる今の時期に、僕は何をしなくちゃいけないのか。人生に於いてもこの時期は、二度と戻って来ない。一日一日が大切だと痛感する。

死ぬほど酒を飲んだり、気ちがいみたいに自分の主張をし合ったり、

本当に大切な時期だ。また、視野を誰よりも広く見開いて、すべてを吸収できるそんな年代、僕は若さを試すと共に、その若さを今は、サークル活動にぶっつけてみたい、精一杯……。僕のあこがれる人として、巨人軍の長嶋茂雄監督がいる。

長嶋を見ていると、何かしら安堵感がある。そしてまた、男らしさを感じる。じかに見た事もないし、話した事もない。しかし、何かしれない魅力が、長嶋監督にある。彼の青春時代は、野球一筋にやってきたと思う。その若さをぶつける対象が違ってもそれにぶつかる若さ、気力は僕等の今の時期と変わりはないと思う。長嶋が今の僕等の時期にどれだけのものを得たか、長嶋が今だからこそ振り返ってみてわかる事じゃないかと思う。また、長嶋が僕等と同じ時期にどれだけの力をぶつけ、努力したのか全くわからない。しかし、彼は力を惜しんだりしなかったかと思う。

何故なら、今の彼を見たら誰でもがうなづけると思う。僕の頭にこびりついているものの中に、長嶋茂雄三塁手は昭和四十九年十月十四日の引退ゲームで、巨人軍での選手生活から去りました。あの引退ゲームが終って、マウンドの上に立った長嶋を見て思わず涙が出てしまいました。彼のプロ野球界における生様、すばらしい!! その一言。今までたどって来た道のり、その過程で僕等と同じ年代の時期に、彼は何を求めて、やって来たのだろうか。少なからず力惜しみだけはしなかったと思う、絶体に。一生懸命生きてきたと思う。僕の好きな人長嶋茂雄は言う"選手にも厳しいが一番厳しいのは自分に妥協を許さない"と僕も精一杯生きたい、いや生きる今の時期に……学生時代に。

新鮮なくだものがいっぱい
片江フルーツショップ
福岡市西区片江330－73　TEL 801－7740
代表者　城　尾　武　久

Jeans & Sweaters
ジーンズショップ　ポパイ
福岡市西区七隈4丁目4－21（派出所前）
TEL 092（801）4432

書について

工学部二年　城　芳治

先日、車に乗っていた時、ふと前に走っているトラックの後部の会社名が目に入った。そんな文字はいつもはなんの気なしに見落してしまうが、なんとなくその文字が気になるので、信号待ちの時にその文字をよく見てみると、確かに隷書か特徴のある楷書のどちらかの書風であった。その時に書道って本当にいいなあと思った。さて、日常生活に於いて文字は新聞・広告・雑誌・書物・看板・表札etc……とあるが、その中で書道が使われている物は、一般に表札が多い。個人ものは楷書・行書・草書、又学校の表札は隷書が多い。他には印の実印等は篆書である。書道では実用の場合と芸術の場合に分けられ、はがきやポスターを書くのも、展覧会の作品を書くのにも、その目的によって、書風・大小・細太・字形・量感・空間のとり方などによって、変化があってなかなか研究ものである。今頃は、いろいろな法帖を見る機会が多くなってきたので、街を歩く時も、あちこちながめて、おもしろい書風を発見することに、ある種の喜びを感じている。今まで知っている日本の書道家は日本史に出てくる。三筆の空海・嵯峨天皇・橘逸勢、三蹟の小野道風・藤原佐理・藤原成行などぐらいである。これからいろいろな書風に触れるようになるが…………。

入学そして入部

工学部一年　佐藤　雅秋

ぼくが大学に入ったのは別に勉強したいという気持からじゃなくて、みんな行くから、まだ働きたくないから、などといったように曖昧な気持で入学した。けれど入学してみるとやっぱり大学生活に思い出に残るような事をしてみたくなった。ただ学校へ行って、講義をうけて、帰るだけじゃ面白くない。それでクラブに入ろうと決心した。最初は体育部に入ろうかと思ってたけど、せっかく今まで続けてきた書道をやめるのをもったいなく思い入部を決めた。入部した当日はまだ少し不安もあった。でも練習していると、不思議と心が落着くのに気づいた。それに入部して、書道部が体育部と同じくらい、けじめがはっきりしていることがわかった。こんなことで不安もなくなり、四年間がんばってみようというあらたな決心をした。

分岐点に臨んで

法学部四年　結城　健

月日が経つのは早いもので、荒鷲に載せる原稿は、これが最後となり、過去数回、原稿に向った時とは、何か違った趣を感じながらペンを執っている。

思い返せば大学に入学以来、現在まで様々な事があった。まず第一に、制限された中で最大限の自由を身体で叫ぶような大学生気質にふれ、こ

れこそ大学生だと感じていた入部当時。また、書道部のためならと、書道部史とサークルに於ける人間関係の名講義を受けに通った部室在留時代。広さを誇る福大キャンパスで何故か、学生課と学文と部室と日本間しか見えなかった役員時代。まだまだ、色々な思い出を残してきた。ラーメンが毎日の活力源だった第二食堂。連盟展の表装を徹夜でやった日本間。毎日通った図書館？試験を拒否した一一二番教室、数学Ⅰ(向田)。等々……。でも、一つだけ確かに言える事は、全てこれらを現在の自分の成長の糧と成し得てきたという事だ。

書道部に残るかわゆい後輩に一言。常に自分に挑戦し、今の自分を乗り越えて一歩一歩着実に公私共に力を発揮してほしい。

人間形成に思うこと

商学部三年　鹿毛博郁

今、我々のサークル書道部には書技向上と人間形成という二本柱の目標があります。書道部に於いての書技向上はあたりまえとしても、なぜサークル目標に人間形成が必要と成ってくるのでしょうか。僕は初めこのことが理解できませんでした。しかし二年目・三年目ともなると少しづつですけど実感としてわかってきたと思います。サークルでの人間形成とは、単にコンパ・親睦を目的とした行事や練習時での先輩・後輩また同輩との交流だけではないと思います。サークルという組織の中で、自分の存在価値を見つけ、自分の能力を発揮すること、また、自分以外の人の能力を見いだし、その能力を生かしてやることも必要です。けして組織の一歯車ではないのです。もう一つ大事なのは、人間関係ではないのでしょうか。大学には二万人もの学生がいます。僕もその一人です。この二万人の一人一人と話ができたらどんなに良いことでしょうか。それができなくても、クラブでは少なくても全学生のうちの六十人とは話し得るのです。自分と違った考え方や経験した選らばれた六十人です。この六十人と話し自分にないものを見い出して、それを自分に補うことです。それと、自分の時間を大切にして、一日一日を充実したものにしなくてはいけないと思います。

色々、あたりまえのことを書きましたけど、今、もう一度自分の行動を考え直してみる必要があるのではないでしょうか。

人間形成の手段としての書道

理学部二年　郡　桂子

「いってきまーす。」

いつものように家を飛び出し、自転車でさっそうと登校。たった十分のことだが、いろんなことを考える。自分自身のこと、クラブのこと、クラスのこと、友達のこと……etc

私にとって書道部とは何だろう。あえて一言で言うと「人生においての成長を助けるため。」そうなると、クラブの練習や行事などはすべて権利となる。このことは、人生一般に言えることだ。しかし、これをすべて、義務と考えるようになった時、それは自分に甘えが生じていると考えてよい。自分に厳しく克己の精神を強く持ちたい。権利の幅が広くなれば、自分に与えられた機会を有効に利用する要求がふえ、すると積極性が増す。ともなれば、サークルの悩みは解消するのだが……。

そうでないのは、やはり我々が人間であるからだ。人間は機械ではない。情緒、感情というものが存在する。だからといって、前に述べたことは、一概に理想だと片付けることができるだろうか。もう一つ、人間には、努力というものが存在する。理想に一歩でも近付こうと努力し、自分を鍛えることができる。

　書道は、基本的には目的であろうか、それとも手段であろうか。私にとっての書道は手段である。書道だけを目的にした場合、何かにぶつかると、そこで挫折してしまう。人間形成の手段として考えることで、幅ができるし、発想の転換もできよう。

原稿を通じて

経済学部一年　重松裕人

　題を与えられていれば、もっと簡単に今もこの原稿にペンを走らせていただろうに、自由作文とのことで、まず自分で題を決めて書き始めなければならない。

　しかし、これは大変な問題である。そしてまた淋しいことだ。私は、今年晴れてこの福岡大学に入学したわけだが、高校まではすべてのことを人から指示され、それにしたがって行動なり、思考なりを行なってきた。それだけに、ただこれだけの原稿さえにも、過大な時間を費しながら満足のいく原稿が書けないのだと思った。

　ところで、入学してまだ数日とたっていないのだが、この原稿を書きはじめる前までは高校よりも、むしろ大学の方が気楽なものだと決めてかかりはじめていた。しかし、その考えは明らかに誤っていることを、この原稿に教えられたのだ。事実これまでは、人に頼りっきりだった。勉強にしろ、学校行事にしろ、生徒の手でやったと言ってもやはり「作られた路線」に沿って私の行動があったといっても過言ではなかった。

　だから指導者からの脱出、自己の発見のために大学ではサークル活動でそれを見い出そうと思っていた私にとって、サークルには入って課題のまず一つが解けたようだ。しかし、これからが本物だ。この原稿によって目が覚めたのだ。四年間は長いだろうが、書道部を通じて有意義な大学生活が送れそうだ。

下宿生活PARTⅢ

経済学部四年　嘉村浩之

　私の下宿生活シリーズも好評に答えてPARTⅢをむかえました。
松尾マンションに入居して、四年目になりますが、四年前は大変にぎやかでありまして、住人も十五人余りいました。現在では、四年四人、新入生一頭、そして我松尾マンションの迷の五年生UFOの六人生活であります。（なんと、みじめなことでしょう。）と主であるおばさんがなげいていました。しかしながら、私生活面で、中身の濃い毎日を送っております。四年生四人のうち、別府出身の者が三人おりまして、毎日アルバイトにあけ暮れて、あるときは……の配達のあんちゃん、あるときはたこやきの職人に、あるときはパチンコ台と根性くらべといったように、この三ばか大将三人組はおもしろたのしくやっています。

　麻雀をやれば、真青な面で朝までやって、あげくのはては勝負なしの結果となるのもよくあります。はやい話しが、喜劇団の集りであります。

近所の住人のうわさでは（まぁ松尾荘の学生さん、馬鹿が多いけどみんな色男ねぇ、それにひきかえうちの子は……）というくらい、近所では評判であります。しかし最近、その良い評判も低下しつつあります。その種となるものは、新入生であるところの者、そうですあの人です。この男は人の顔をみると得意のいやらしい目で、わらうくせがあるのです。ある近所の主婦Aさん（三十六才）がいっていました。松尾荘の学生で少し太った森田健作とたぬきを砂糖水で混ぜた顔の人、私の顔を見て、両目でウィンクするのよ、私その気になるから……いやと、落ちこぼれた主婦が物好きなばあさんに話しておりました。実にけしからん話しであります。すくなくとも松尾荘は、人様に後指をさされる、ふるまいをしないことをモットーとしていたのに。この新入生断固たる処置をとらなくてはいけませんね。

このようなマンションでも訪問者は多いのですよ。下は三才のガキから上は五十過ぎの食堂のおばさんまで気軽に訪れます。皆さんもどうぞ。

最後に松尾荘バンザイ

備考

先述された新入生とはいったい誰でしょう。答えのわかる方は、手を上げて大きな声で答えて下さい。正解の方抽選で五名様に限り、無料で松尾マンション招待券をさしあげます。

桜の季節

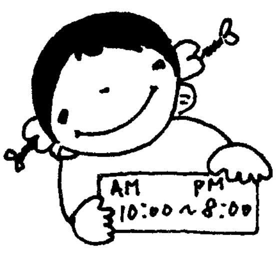
法学部二年 横山久子

一年間というものは、なななんと早いもので、いつの間にか四つの季

炉ばた焼
わらじや

コンパ格安にて受付中　友泉店 TEL 871－6890
西新店 TEL 851－9791

"OPENごあんない"

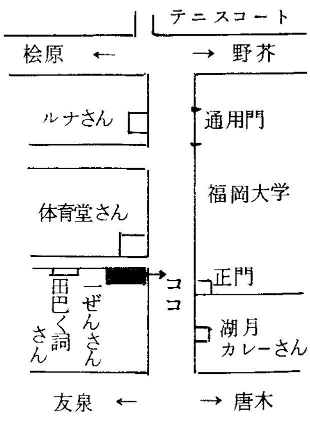


4月17日より店開きしました
喫茶モアです
小さな珈琲店ですが、語らいの
ひととき、あなたのやすらぎに
一杯の珈琲と共に御利用くださ
いませ。

福岡市西区福大前

喫茶 MORE モア

801—7899



節が巡って新学期が始まりました。校内の桜も満開で、すっかり春めいています。授業風景も活気がみなぎっていて、私なんかの座る席がない位……。この状態がいつまで続くのでしょうか。

さて、我書道部はと申しますと、相変わらずなかなか愉快な人が多くて、非常に楽しゅうございます。かわゆい後輩も入って来て、私もふと一年前の自分を思い出してしまいました。人は、第一印象が大事なのだから、もっと女らしく、ひかえめにいけばよかったなあと、今さら思ってみても仕方ないことだけど。これからは、早く後輩と仲良くなって、よいお姉さんになりたいと思ってます。つたない私ですが、後輩さんよろしくお願いします。もう直、葉ざくらになってしまいます。桜の花のような短い青春もあるけれど、私は私なりに悔いの無い青春にしたいなと思っています。

欧州珍道中

経済学部四年　高　尾　康　弘

意外な場所に私が居る。ここはパリ行きの飛行機の中。春季合宿の翌日とあって目はうつろ、今だに信じがたい心境である。十六時間経てパリへ降りたち、その直後、州一路ローマへ向った。憧れの外地に立ち、まず一息。

第一日目は、夕刻到着したので、カンツォーネに耳を傾けつつワインを飲む。甘い口あたりに気をよくしすぎ、いつの間にやらホテルのベットとあいなった。

翌日、バスで市内観光へ出た。何とも陽気な国である。バスの運ちゃんの顔はなぜか真赤、そして、こちとらはいつの間にか酒盛りである。どこへ行っても酒はついてくるのである。

数日後、パリへ向った。伊人の陽気さに比べ何と冷たい人種なのか。合理主義で固まっているのである。というのは、彼らは自分達が一番優れた国民であるというプライドがあるからである。伊では英語が簡単に通じるのに、英語どころか絶対に仏語しか話さないのである。私がパリのシャルル・ド・ゴール空港でトイレへ行った、その帰り、ゲートへ行こうとするとハンサムな三人のガードマンに壁を作られた。数ケ月間の即席の仏語も一斉にペラペラやられたのではたまらない。英語でやっても聞こうとしないのである。やっと英語のわかる空港職員が来て、無事ゲートへ行くことができたのである。その際、ガードマンに対して、ニッコリと感謝の意を込めて一言、偉そうに！

いよいよ最後の夜が来て、一人地下鉄に乗った。たった数日間なのに日本に早く帰りたいと思った。何よりの収穫は、サンローランがどうの、モンマルトルの丘がどうのこうのではなく、国民性の違いがわかったことであり、短期間でも、外から日本という国を見聞き、考える事ができた事だった。

隣りの仏人とワイン片手に一路東京へ向う。

思い付き

工学部三年　河　野　清　文

今の我々若者、狭く言えば大学生にとってしなければいけない事、又、希望に燃えている事、沢山あると思う。麻雀・パチンコ・恋人をつくっ

たり、その他いろいろあるが。我々にとって、自分なりに、そう思うかもしれないが、熱中し過ぎる事かもしれない。それが、一番危険な様な気がする。今の日本人は何かを求め過ぎているのではないか。昨年で言えば、王のホームラン世界新記録、キャンディーズ解散など、これはある番組で取り扱ったのを、たまたまテレビで評論家が言っていた事を聞いて感じたんだが。

熱中する事は良い事かもしれない。実際、自分も良い事だと思う。しかし、冷静に考えてみて、今の若者に何か物足りない気がする。自分自身もそういう風だから、そう思うかもしれないが、何が物足りないのかと問い返されるとちと困るんですが、〝らしくない〟という言葉が頭に浮かぶんだが、男らしくない、青年らしくない、学生らしくない等、それらが足りな過ぎているのでは。ただ、〝らしくない〟それだけの事かもしれないけど、又、変な方向から考えてみて、もう少し平凡であって良いのではと思います。

いろいろ訳のない事を書き流しましたが、ただ、ふと今、自分の中と自分の周辺を見て感じた事です。

ひとり芝居

法学部二年　上田信一朗

桜は桜であらねばならぬ。

その事の為に、足元にお決まりの造作を遂げるのだ。

時は四月、灰色の生活であった受験も無事に終え、七限に通うようになった。桜は盛りであった。否、葉桜であった様な気もするが……。

桜の木に肩をもたれかけ、顔をしかめながら、狼の眼を持つ一人の男と桜。絵になるぜ。この素晴らしい一幅の絵から一年が、台風の如く過ぎ去ってしまった。とにかく友達ができた。これが何よりにもまして嬉しい喜ばしい事であった。人間の集団につきまとう裏切り、非難、中傷、誤解。このありとあらゆるものがこの一年間にもあったように思われる。友達の様々な行為から、人の心の本音を先ず理解すること。そして、それを生かす事、そこに一つの集団、つまりクラブを動かして行くものがあるのではないかと思う。

前を振り返ると、不安の中に期待が混じり、現前と本音、冗談と本気、様々な感情の中で自分を失い、チグハグであったことを思い出す。こんな事はもうしてられない。早く昔に戻らねば。何事も正直でありたいものだね！　富士には月見草がよく似合う、という。では、この小生には、何がよく似合うのかな？　雑草？　そうかも知れないね。

もし僕が

経済学部四年　高田直記

「寝て見ると、うっすらぼんやりした青が
　起きて座すれば
　　濃い青に
心はずみ　みる青は
　　はればれとした　すきとおった
心さびしき見る青は
　　どんよりくもった僕の色

しからば皆んな目ざめて見よ。
見よ！　この果てしなき限りなき
青い空を眺むれば

心貧しき人達よ
心いやしき人々よ
この青にそまるのだ
皆んな空に同化されるのだ。」

もし僕が、今の僕がいなかったら、万が一、幼き頃からエリートコースを歩み、エリート大学を卒業して、エリートコースの過程を踏めば、きっとこの家も親も捨てることになるだろう。今の僕にはそんな神業は成し得ない。そんな大業はなしえなかったからこそ、今の僕がいる。

小さい時から、僕は空を見ていた。どんなに環境が変わろうとも、僕が住んでいる空の上の空だけは、なんら一つの変哲もない。どんなに世間が荒れようと、どんなに人が変ろうと、青い青い空だけは僕の生まれた時からそのまんま。皆んながみんな、虚栄を捨て、名声をすて、あの空に同化されて吸い込まれるなら、なんて素晴らしいことなんだろう。

今の僕にはエリートコースを歩んで行くという神業は出来ない。だからこそ親も可愛がってくれるし、まわりのみんなも先祖の神々も見守ってくれるんだ。これから先は自分が、精一杯生きていくことしかない。エリートコースを歩むことが出来なかったからこそ、家を護り、地を守り、這い蹲って生きて行くことができるんだと。

何年たっても空の青さだけは変わってほしくはない。青い空を失った時には、僕には夢がなくなる。

この青い空の続くかぎり。

某作品集より

一人旅

工学部二年　島村友博

四月十一日、十四時五十分、博多発特快に乗り、一人自由気ままな旅にでました。

目的地は、当初の予定であった能登からぐっと落ちて、一泊二日で帰れるようなところとなってしまいました。昼過ぎから降り始めた雨がだんだん激しくなり、汽車の窓を強く打つようになって、行先の決定に不安を憶えながら、時刻表をくまなく調べた結果、山口の秋芳洞と決めたのも、門司から下関へと乗り変えてからでした。旅行というものを、中学、高校の学校行事としてしか経験したことがなかった自分にとって、こういった旅は、実に不安と恐怖に満ちたものでした。夜は泊る所がないかもしれないと心配し、いざとなったら駅の待合室でもと思い、毛布をもリュックにつめて行きました。この事を後で友だちに言ったら、「おまえはアホか。」と笑われましたが、ほんとうに行く前は、もしもの時はどうしようかと思ったのです。しかし、やはり金さえあったら、どうにでもなるのか、その日は湯田温泉になんとか泊りました。

翌日は朝から雨も上がり、秋芳洞を見物して秋吉台まで歩いているうちには、うまい具合に日まで照ってきました。カルスト高原をバックに

満開の桜並木を歩いていると、まさしくこの大自然の中に、自分一人だけがいるという意識がこみ上げてきて実に感動しました。その場の風景が大変すばらしく、印象的であったことはいうまでもありません。そして、昨日の不安も消えうせ、まったくいい時期に来たことをうれしく思いました。

二人旅もいいでしょう。三人いやそれ以上の人数で旅することもまた楽しいでしょう。しかし、一人自由気ままなぶらり旅もまたいいものです。

書道部の入部にあたって

経済学部一年　酒井昌弘

大学に入って、およそ二週間が過ぎてしまった。この間、全部の講義を受けたが、あまり、パッとするものではなかった。高校の授業とさして違わないが、ただ一つ驚いたことに、九十分の長さといったら、たまらないのである。こんなことを思いながら、毎日、大学に通わなければならないのかと思っていた時、書道部の勧誘にあった。書道は、小学校の頃から中学校の時まではあるが習っていたし、高校の時も、名ばかりの部であるが、書道部に入部していたから、福大書道部に入部してみようと思った。

そして入部してみて、高校の書道部など問題にならないくらい、礼儀その他の面で厳格であるのに驚いた。

しかし、私は、四年間、この福大書道部で多くの友、良き先輩を得、多くのものを学びとろうと思っています。

給油から車検まで
学割制実施中

福大
ヤマエ石油 七隈SS
東七隈
七隈四ツ角

ヤマエ石油株式会社
七隈給油所　TEL（801）3311

時計・メガネ・貴金属
信用を売る店　　時計1級技能士・眼鏡調整士
徳田時計店
友泉亭ユニード前　TEL 871－2603

書道を志す者として

商学部二年　桑原淳一

僕は筆を握ってもう十年近くなります。と言うと、一般の人は僕を書道の天才（？）のように思うかもしれませんが、それはとんだまちがいで、小・中学校の頃は遊びに等しい習字で、また高校時代は全くのブランクで、書道というものに直面したのは書道部に入ってからでした。

今、僕らは臨書中心の練習をやっています。それは昔のすぐれた書家の作品に触れ、練習、研究することにより、書の原点に立ちもどり、その書体、用筆等を収得する事によって未来の自己の書の基礎を築く為です。今までに九成宮醴泉銘、蘭亭序、集字聖教序、米元章、黄山谷、蘇東坡を臨書してきました。一年間で六つ、単純計算でいくと二ケ月に一つの割で臨書する古典を変えていた事になります。一年間で六つとは多過ぎたように思いますし、昔のすぐれた書家が一生かかってつくりあげた自己の書を、初心者に等しい僕（ら）がほんの二ケ月程度で、その本質を理解・収得しえない事はもうわかりきっています。しかしながら、我々は学生です。学生時代は長いようで短いものです。我々の課題は、その限られた時間に、他に対してどれだけの事をなし、自分がどれだけの物を得るか、だと思います。あれもこれもやって広く浅くするという意味ではないですし、一つの物に専念するという事も必要だと思います。しかし、毎日毎日をもっと充実したものにすれば、より広く深く研究ができるのではないでしょうか。

今、過去を振り返り、自己反省の中で新たな意欲に燃えています。この純粋さを失わず、これから歩んでいきたいと思います。

春に思うⅡ

商学部二年　八谷俊彦

四月、春。新入生を迎え、大学内は学生で一杯にあふれんばかり。そんな中でクラブの勧誘週間に入った。ツツジのつぼみも、ふくよかに濃い色どりを見せている大学内のあちら、こちらでは、学術文化系、体育系の各々のサークルの立看板や幕で華やかな賑わいを見せ、大学に又、クラブに期待と不安とが交錯し、少しこわばった表情の初々しい一年生を我クラブへとばかりに、どこも必死だ。目上の人を前に、いかにも謹んで説明を聞いている一年生の姿を見ると、極めて消極的かつ事勿れ主義であった自分が、平穏無事な大学生活にするか、波乱に満ちた大学生活を選ぶかの決断の時、決心するまでに数日間の時を要した一年前を思い出す。書道部に入り、歩きはじめ短い、あるいは又、長かったとも言える一年の月日が過ぎ去った今、サークルという枠の中で、そして大学生として精一杯に限りなく生きたかと問われた時、胸を張って即答できる自信はない。人間、どんな道を選んだにしろ、多少の後悔は着きまとうものだとは思うが、それにしても、何かに熱中し、強烈な生き方が出来ずに、どことなく冷めている自分がイヤになることが多い。サークル活動に参加してからは、全てがプラスになる事ばかりであったにもかかわらず、一年前と現在の自分を思う時、何処に、その成長の跡を見い出せばよいのかわからない。本当に情なく思う。しかし、この心の空虚も良い方へと考え直せば、ちっぽけなものであり、塗りつぶすのには充分

一　級　技　能　士
表　　具　　師

表装
額装　樋口吉春表具店

福岡市西区曙2丁目2－23
TEL　841－2524

総合結婚式会場
大小宴会場　ご予算に応じ承ります
コンパ同窓会

中国料理　平　和　楼

本　店　　福岡市中央区天神2丁目6　℡　771～4141
大濠店　　福岡市中央区大濠公園2区　℡　761～7252

な時間と、そして場があるのだ。

書道部に入って

法学部一年　城　　弥　生

書道部に入ってひと月経ちます。

最近では、ずい分書道の練習にも、部の雰囲気にも慣れました。長く感じていた練習の時間があたり前に感じられます。九十分の講義にすっかり慣れてしまった様に。

先輩の名前も九割強覚えました。ひと月もすれば覚えるのはあたり前の事ですが。

先日、ドイツ語で急にあたってしまい、答えきれませんでした。すると、先生は、私に鋭い言葉をあびせられました……。それ以来、真面目に復習をしようと誓いました。

何だってそうですね、努力をしなければ何事も成らないのです。頑張ります。これからはもっと。書道部にいて良かったと思える様に。

書道と私

薬学部二年　門　田　孝　志

私が書に接して十四年目になります。書とは何か？　この疑問に対して高校時代にある程度の真髄を知りました。

現在、我々が知っている一番古い文字は、甲骨文字と呼ばれるものであり、書を学ぶにあたって基礎とすべきものです。これを土台に現在文字に至っています。私も好んで勉強し、作品作りをしてきました。特に少字数を。

作品は心の表現、つまり自分の内部から湧き上ってくる感動を表現しなければいくら大きく書いても、それは単なる「文字」があって「書」の作品ではないと思います。少字数作品の先駆者である手島右卿先生は「筆意の盛んなものを追求せよ。」とか「感動のリズムを必然的な線に乗せ形象の上から訴えねばならない。」とも述べられています。書の線は、単に数学で扱うような平面上のラインや節でなく、彫刻的な空間も含んだ厚味と、音楽的なリズム感、それに舞踊のような動き、つまり線には律動、動勢等がなければならない。

師である浅海蘇山先生、北岡抱岳先生などの教えにより、「米山」の書を探求してきました。しかし、まだまだ黒と白の対比、筆圧筆速の関係の問題が解決されていません。そこで、「小が大に見えるように」「一線一線が魅力的に見えるように」となりたい。

静かに物を見つめ深く考えることによって、私と書とが一つになる境地に至りたい。

自己主張とコントロール

経済学部三年　大　山　一　則

今の世の中、イライラすることが余りにも多く、総体的に見て、常識とか良識が歪んだ形で存在しているように思われてならない。人の意見というのも「自分の利益を守る。」というところに価値基準を置いて、ほとんどこれをもとにした主張のようである。

昔から「無理が通れば道理引っ込む。」という諺があるが、まさにそのような世の中のようにさえ思われる。これを解決するには、まず、相手の立場を理解する心の余裕が、必要であり、自己主帳は、カッコの中に入れて、公平に物事を判断する用意が大切であろう。これが、所謂、良識とか常識とか言われるもので、この意味は極めて大きい。今の時代には、たくさんの価値基準が共存している。考えてみると、自分が発言する言葉は、自分の価値基準の上に立って、自然に出て来るもので、これは、基準を持っている。みな、それぞれ異った価値基準を中心にして、それが絶対的であるとの確信をもって主張する。このような考え方から言えば、我国の人口が、一億あれば、一億人の価値基準が存在するわけで、これでは今の世の中が安定するはずがない。少しでも住みよい社会にしなければという角度から、人間が創造したものが、常識とか、良識とかいうものであろう。誰にだってその人の主張は、当然のことだが、しかしながら、もう一つの自分を越えた客観的な基準を自分の中に持っていなければならない。常識とかいうものは、人間の長い生活経験の中から生まれた生活の知恵だが、現代では、人は自分の価値基準だけを存在させて、広く高い人間としての価値基準を失いかけているように思う。お互いに自己を越えた人間としての価値基準をもっていなければ、安定した人間社会は望めない。我々は、自分中心の自己本位のバラバラな価値基準の主張から脱出して人間性の回復、世の中の安定を目ざして建設的に自分をじっくり反省し考えてみたいものだ。

僕と書

理学部二年　木谷利文

僕が書道を習い始めたのは、(書道といっても、このころはまだ習字と言っていましたが)小学校二年のときよりかぞえて今年で十三年目。時のたつのは早いけど、腕の方は必ずしも、時の流れと正比例するものではない。

福大書道部に入部するまでは、野崎先生のところで、毎週日曜日に筆を動かしていた。

作品を作って展示会へ出品するようになったのは、中二の頃、この頃からが書道と呼べるのかもしれない。初めての作品は、造像だった。福大で書いているごついものではなく、筆の腹をゆっくりと使ってゆったりとしたものを書いた。その後、いくつか出品していった。現代文も書かされたが、とても難しかった。

書道部へ入って約一年、今年の正月に野崎先生のところへ行って書初めをしたが、「書風がかわった。」といわれた。

今、僕の書道は転換期に来ているように思う。でも、自分の字を書いていきたい。(自分の納得できるもの)

僕は書道が好きだ。さもなければ、こんなに長い間続くわけがない。筆をもっていると、なんとなく落ち着く。これからも書道をつづけて、僕の生涯の友としていきたい。

入部に際して思うこと

商学部一年　古賀直彦

福大に入学し、三週間が過ぎようとしているが、まだ大学生活によく慣れず未知な事ばかりだ。その中の一つに、福大書道部に入部したという複雑で大きな出来事があった。入学した時は、クラブに入ろうか入るまいか、だいぶ迷っていたが、大学でクラブで入らないというのは本当にもったいない話だと今は思う。自分はある物事に挑戦するということか、いどむのにとまどう消極的な性格で、俗に言う、「食わず嫌い」である。だから今までに、ああすればよかったなどと後悔してきた事が多かったが、大学では幸先よく「書道部に入部」という美味しいものに当たったようでよかったと思っている。四年間に渡り、じっくりと味わいたいと思っているが、そのためにも自分は書道部の一員として、部の規律や先輩方の教えを守り、部員として恥じないようにしなくてはならない。それに、このクラブでの先輩や友人とのふれあいも大事にしたいし、早く書道の腕も人並みになりたい。先輩達のように半折にすらすら書けるようになるだろうか。とにかく、現在大学生となり書道部に入部したのだから、中途半端な大学生活にならぬように、「なぜベストを尽くさないのか。」と自分に問いかけて頑張りたい。

ひとりごと

経済学部四年　飯尾裕美

新しい学年を迎えたばかりで、少々とまどいを感じていたら、もう四月も今日一日限りとなってしまった。「もう四年?!」これが実感である。大学生活三年間の経過が、中・高校の時の三年間に比べて数倍の速さで通り過ぎてしまった様に思えてならない。

入学してからの「三年間」という時間の経過が、三年前の私を今日の私に変えた。とキザに書いてはみたものの、実際、自分自身にどれだけの三年間の収獲があったのか、明確な自覚は残念な事にすぐには浮かんでこない。しかし、確かに私は三年前とは違っているのだ。成長したのだ。(成長してなくては困るのである。)私の大学生活において、友人の存在価値は、非常に大きな比重を占めている。大学になって知り合った友人達は、出身地なども異なるせいか、今までの友人達とは、一味違った感じで私に作用している。数多くの、そして色々な特質・個性を保持した友人達からの多様多種の影響を大いに私は受けてきて、随分性格的にも変わったと思う。大かれ少なかれ、各々の友人から受けた影響は、それなりに私の人格形成の面において大いにプラスになっていると痛感する。大学時代の友人達、これからもずっと交友関係を維持させつつ、一層切磋琢磨してゆきたいものである。良き友にめぐり逢えた事、これが私の大学生活の三年間における偉大な収獲のようだ。

私の一年間

法学部三年　川原清美

大学生になって、もう二年が過ぎ、今年は三年になる。毎年この時期にこの原稿を書く。私にとって、これに書くことが、自分の反省であり、

学割致します!!

おしゃれのおてつだい

松栄クリーニング片江店

福岡市西区片江1299

TEL 862―1441

明るさいっぱい、サービスいっぱい!

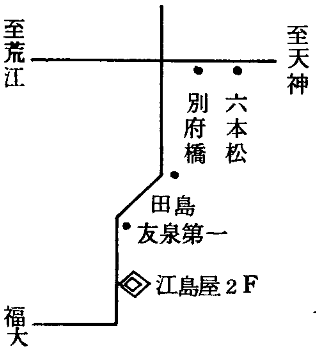
雀荘セブン

福岡市西区七隈4丁目5番6号

TEL (861)4819

夢を売るお店

GIFT SHOP



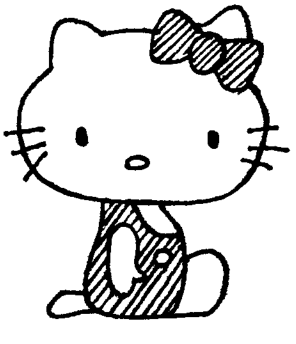
江島屋2Fテナント

アクセサリー

&舶来雑貨

TEL 861―0152

博多店 451―1370



エイコ

在り方であるように思う。そして、先の方でこれを読み返した時、また新ためて考え直すことができるであろう。

では今年は、どんなことを頭において、行動したらよいだろうか。漠然として、まだわからないが、時間というものを大切に生かしていきたいと思う。春季合宿において、時間に追われるのではなく、時間は追うものである、と言われたように、時間を自分の為に有意義に使いたいものである。

社会においては、大人としてあつかわれる年令でもある。その為にも、自分の行動に責任を持たねばならないと思う。

とにかく今年一年、自分なりに進むつもりです。

書道部に入部するまで

経済学部二年　桜　井　　典

僕は小学校二年から六年まで習字を習いました。それ以後は学校の授業中にある習字の時間に限られて筆をとるだけでした。中学時代は卓球部に入部し、高校時代はクラブ活動というものを経験しませんでした。だから今は高校時代に何もしなかった事に悔いが残って仕方がありません。そこで、大学一年の夏から再び書道に打ち込もうと思って半年間勉強を続けてきました。自宅には資料や法帖などはたくさんありますが、しかし福大生である以上、やはり福大書道部というサークルの中の一員に加わりたくなったのです。自宅で書道を学ぶ以上のものが福大書道部にはあると確信したのです。また、たくさんの友達や良き先輩や後輩たちとも巡り合いたいし、大学のサークル活動をも経験してみたい。とにかく僕にとって残された三年間を有意義におくりたいと思ったのです。

不思議な力

商学部四年　八　尋　厚　子

花のいのちは短い。咲いて、そして散る。しかし、それが自然なのである。美しさをそのままにと願うのは、人の願いであるけれども、それは不自然なこと。いつまでも咲いたままでは新たないのちは生まれない。散るからこそ実を結ぶ。だから花が散るのも、生成発展の姿なのである。

人もまた同じ。不老を願い、不死を望んでいることと思う。それでもやはり自他ともに日一日と老いてしまう。人情としては悲しいものである。だけど、これも大きな目でみれば、生成発展の一コマとは考えられないか。

花は短いいのちを精一杯に美しく咲く。人もまた、限りあるいのちの一日一日を大切に精一杯美しく生きたいものである。

書と現在の私

法学部三年　吉　田　富美子

このクラブに入って一年が過ぎた。二年目に入って少々悩む。「字は体を現わす」と先人は言うが、やはりそこにはそれなりの確証があるのだろうか。確かにより良い状態で素直な気持ちになれた時には、自分のレベル云々は抜きにして満足がいく。しかし、その日の気分に左右さ

れ、頭の中から振り去る事のできないものがある日はどうも、道の世界でいう雑念が入るというものであろうが、思うように自分の眼下に集中できないのである。書に接する態度としても、三昧鏡や剣道の世界で言われるのと同様に、無心になる・忘れる、という状態が要求されるのだろうか。もしそうだとすれば、今の私はどうだろう。

大学に入学して、この四年間に、いろいろな事を、一つでも多くの事を知りたい、かじりたいと思った。そして、この書道部に入って来たこともその一つであったと思う。先輩の方がよくこう言われる。「若い時代、大学時代には、いろんな事を経験せよ。自分から突っ込んで行って一つでも多くのものをかじれ。」って。確かに若い時だからできることとも多々にしてある事だし、でも、そこで欲を出すほど何かをものにするのも自由であるはずである。その点、まだ私はこの書の世界への欲を出していないんじゃないのかな？ クラブの時間に、講義の時とはまた違った楽しい顔つきで練習に取り組んでいる仲間をみて、うらやましく眺めている私だから。もうクラブもあと二年。書によって悲しいことも忘れられた。書によってつらいことも沈められた。書によって喜びも知った。書がそんな友のようなものに自分でできれば最高だろうなと思う。そういう大きな存在にできたらいいと思う。ちょっと、机上の空論めいちゃったかな。でもいい。それも大学生の特徴であるのだから。

つれづれなるままに

商学部二年　扇　寿美子

本日以ってどういう訳か十九才。たった一枚の吹けば飛ぶような紙に、

今までの力を集中させて大学に来た。宮沢賢治「人間は何の為に生まれたかを知る為に、生きるである。」今の私にとって、そんな事はわからない。が、何の為に大学に来たか、そして私は何をしようとしているのか、それを知る為に大学にいるのである。進級し、心も新たに、部屋でぼんやりしていると、松尾芭蕉のおくの細道が目についた。「月日は百代の過客にして、行きかふ年も、また旅人なり。」古文といえば、本を開くことさえ拒絶していた私が、今は何の抵抗もなく、当時を懐しく思いながらも、ここに書かれている事を心に浮かべた。あの頃は、訳に追われて、鑑賞する余裕なんてなかった。いつか読んだ新聞では、文部省の改革案が載っていた。「物事を客観的、多角的に考え」「生活に満足や生き甲斐を持ち明るく生活する」「他人の過ちを素直に許し、助言や忠告を謙虚に受け入れる」「生活の節度を持つ」わあ、なんと無理な相談なんだろう。いったい、こんな人間がいるのだろうか。ユートピアもこれ程までなると恐ろしくなる。論評では、「創意工夫、寛容なども…すなわち、集団の一員として、集団に寄与していく上に必要なものである。」と説明するが、文部省だの、何だの……。ただ私は、これを鑑賞し、またこのような境地、いや……の中に浸ってみたいと思うのである。

私にとって書道（書道部）とは

理学部三年　吉武良子

私は入部してまだ日が浅いのですが、今の私の書道部に対する気持ちは、行きたいから部室に行くのではないような気がします。ただ、義務づけられたものをやっているようなのです。けれども、一旦、練習場に

入り、練習を始めると、不思議なことに、他のことを忘れられるのです。この前などは、汗が流れ落ちることさえ気づかず書いていたのです。私は、こういう気持ちを大切にして行きたいと思っています。

今までは、コンパや、パーティー等だけには出席して、練習にはあまり出てなかったので、少しあせったり、「自分は、何のために入部したのか。」考え込んだりしました。しかし、今は、連盟展という目標があり、少しの時間だけど練習にも出て行けるし、その短い練習の中にも、真剣さを見いだせるということがわかったのは、私にとって、大きなプラスになったと思います。

このような気持ち、状態を、本当に、自分のものにすることが、これからの私の課題ではないでしょうか？

二年目を迎えた〝今〟

商学部二年　寺尾孝祐

大学生活も早二年目を迎えようとしている今、いろいろ思索に頭を悩ますことも多い。去年の今頃はと言うと、連日の人の波に嫌気がさし、なぜか虚無的に人生を思い、なるべく人を避け、好きな小説を読むことに固執した一時期があったように思う。そしていつしか月日は流れ二度目の春が巡って来ている時に、やっと自分の本当にやりたいことは何かと言うことがわかりかけて来たような気がする。それは別に大層なことではないが、入学当初大学に何の期待もしていなかっただけにある意味で、目標ができたことは、大きな励みになるし、収穫だったと言える。

それと今年の年頭に願ったことに、今年は何でもいいから、忙しい年であってほしいという念願どうり、講義・寮・クラブ・etc に毎日割に忙しい生活をしている。忙しいということは、その時はたいへんでも、後々充実していたことに気ずくし、生活に張りを持たせる意味においても必要だと思う。少なくとも毎日何をやっていいのかわからないまま生きるよりは格段だと思っている。

近頃よく考えることに、誇張しすぎで大時代的だが「今しかできないことを今やろう」みたいなことを強く感じている。それは多く行動力を必要とするけれども、今自分にできる範囲の全てのことに手を出してみようと考えている。多分にそれは贅沢で無謀なことかもしれないが、若さだけが取り柄の我々の年代、それも一つの権利ではないかと考えたりしている。そしてそれはいい意味での何んでも見てやろう、聞いてやろう精神だと自分では解している訳ですが。

なんにしても残された三年間という時間を大事にしたいと思っています。書道を全々関係ない内容になりましたが悪しからず。

大学に入学して

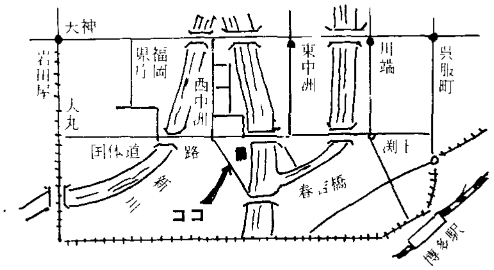
経済学部一年　丸野徹

大学に入学して先ず感じたのは大学というものは非常に自由でありそのために自分自身の責任が大きいということである。つまり、我々はこれまでは、先生の言うことに従っていればまあなんとかうまくいっていたのだが、これからは、ああしろこうしろと言う人がいないので自分自身の考えで行動しなければならなくなったことである。

次に、講義の選択がかなり自由で受講する講義の数が少なく講義に出

平助筆

筆・墨・硯・紙・書道用品



復古堂本店

福岡市中央区春吉3丁目3街区9号

TEL (761)5122・(761)0884

鳥まさ

猪の鍋物
猪のすき焼
猪の焼肉
1,200円
お1人様750円より

(春吉店)

牛しゃぶ鍋・牛すき焼≪お一様1,200円≫

水たき定食……………………… 1,200円

福岡市中央区春吉2丁目9－17

TEL 731－4882
731－4635

駐車場完成(25台収容)

営業時間 AM12:00～PM10:00

忘年会・新年宴会御予約承ります。

ボウリング スナック
レストラン ゲームコーナー
ビリヤード 音楽喫茶(もみの木)

七隈ファミリープラザ

〒814 福岡市西区七隈11番地(福大前)

TEL (代) 861－5555

るのも自由で出ても出なくてもいいということである。ただ出ないと自分には損になると思うが。それから講義の時間が長くてきついという声を回りでよく耳にするがその点は高校時代に毎日二回八〇分授業があったのでほとんど気にはならない。

また、これまでのようにクラス単位でなく一人一人の時間割が違うので友人ができにくく自分から友人をつくっていかなければならないと思う。

まだまだ感じた事はたくさんあるが、とにかく言えるのは最初に言ったように自由であり自分自身の責任が大きいということであろう。また大学という所は学問だけでなくその他のいろいろな社会勉強にもなるだろうと思う。とにかく大学に入学したからには卒業した後で「俺は大学時代にこれをしたんだ！」と堂々と胸を張って言えるようにしたいと思う。

二年目

商学部二年　原　千尋

入部して一年が過ぎた。私にとって今はまさに二〇才の春である。さすがに今年ばかりはいつもの年より多少気分がちがう様だ。まだ、二〇才なのだという自覚は無いのだが、何をするにしても自分が責任を負わなければならないと思うと、今までただ漠然と時に流されて過ごして来た私にとっては、ものすごく負担に感じられる。クラブにおいても心機一転頑張らねば！と思っているのだが……。

この一年間を思うに、クラブのために何か役立ったという実感を得られる物が何も無かった様に思う。しかし、私が書道部から得た物、それは言い尽せるものではない。

書道の方は残念ながら努力不足の為に上達の跡がみられないのだが、先輩とのつながり、同輩とのつながりのむずかしさやすばらしさは、クラブに入ったからこそ、知る事ができたのだし、はじめは何となくクラブに居るという感じだったのが、今ではクラブが生活の中に無くてはならないものになっている。今、自分の足もとが固まりつつあるのがわかる。

一年の今頃、クラブをやめたいと思った私に続ける事を勧めて下さった先輩に大変感謝している。そしてその先輩の気持がわかる様になった自分を嬉しく思っている。嬉しい事がある分だけいやな事もあったけれど、今の自分、少なくとも一年前の自分より向上させてくれた書道部をこれからも大切にして行きたいと思う。

書道部に入部して

人文学部一年　三小田　佳子

情けない話ですけど高校時代は遊びもせず、勉強もせず、何ひとつ熱中することなく過ごしてしまいました。友だちに「あんたさめとるね。」と言われて「これではいけない、何か熱中できるものを探さねば……」と思いたち、自分に合ったクラブというわけでこの書道部に入部しました。

初めて練習に参加した時の第一印象は「こわい」そのものズバリでした。先輩が話しかけてこられる一言、一言にオロオロしていましたが、半紙に手本を見ながら書いていくうちに一生懸命になっていました。久

しぶりでした。練習が終って感じたあの快さは……。

自分で納得できるような大学生活を送るためにもクラブに積極的に参加して書道に関することをもちろんですが、いろんなことをおそわって身につけたいと思っています。

このまま書き続けるとあることないこと調子にのって書いてしまいそうでこれでおしまいにしたいと思います。

若い時は嵐!!

経済学部三年　松田一寿

オレは二〇才（はたち）、俺は若い!!そして俺は青春のど真中、この俺の青春につきまとうのが「福大書道部」そして、「書」……。福大書道部に入って来た時の俺、そして今の俺、やはり違う、違うのが当り前田のクラッカー、酒も浴びるほど飲んだ時もあった。又、影でこっそりと涙を流した時もあった。目いっぱい喜んだ時もあった。いいじゃないか!! 若さだよ!! 山ちゃん!!

俺はまだ、自分の限界というものを知らない。いつも途中でやめたりする。俺って、どれだけの力、能力があるか知らない。書でも又、サークルに於いても、やるべきだ、ためすべきだと思うが出来ない。しかし今、やろうとしている、いやや っている。りっぱな先輩がおられる。さすがだなと思う。しかし、俺は、いつも思う、「先輩だって人間なんだ!! 俺だって人間さ!! 先輩に出きて、俺に出来ない事はない!!」と思いつつ自分と戦いつづけて来ている。俺の一番好きな言葉に、坂本竜馬が言ったもので、「人の一生というものは、たかが五〇年そこそこである。いったん志を抱けば、この志に向って事が進展するような手段のみをとりいやしくも弱気を発してはいけない、たとえ、その目的が成就できなくても、その目的の道中で死ぬべきだ。生死は自然現象だからこれを計算に入れてはいけない」という名言である。いつもこの言葉を頭の中に入れて生きております。俺も、サークルに入ってこの書道部に、自分をぶつけています。みんなも、サークルに入った以上、このサークルにぶつけてみたらどうです。たまらんスよ!! 自分も見てくれるし、又人も見られる。お互の相互理解によって、人間形成が出来る、すばらしいもんですよ!! 俺もまだまだ若い!! フジ丸のごとく、嵐を吹きまくって、青春を新幹線のごとく暴れまくろう!!

時は天国、青春時代!!

なぜ？ 何のために！

商学部一年　成田睦子

高校三年になったまもなく副担任の先生が、「君らは、何の為に大学に行くのか？ 大学では遊んで暮らし、世間の人から社会から、大学卒ということを認めてもらうために行くのか？ 目的なしに行くな！ 大学に入るためだけにこの一年を費やすな！」とおっしゃったことに対して、反発するだけの意欲があった。「私は、……の目的で大学に入り、……になるために自己錬磨し、学生生活の一コマ一コマを有意義に過ごし、学生生活で得た教訓を社会に出て、社会に還元しよう。」と思いながら、一年間がんばってきた。

しかし、その結果が報われず、第一志望にも第二志望の大学にも入れ

なかった今、何のために！ なぜ？ という問いに答える気力がありません。だけど、少しずつでもいいから、波瀾に満ちた青春から、学問を越えた、より大きな人間としての成長を求めていきたい。

翔ぶ

法学部二年　村瀬和美

翔んでみたいのです
大空に向かって手をいっぱい広げて
小さな私から大きな私に変わる為に

深い眠りから目醒めると誰かが私を呼ぶのです
彼女が私をここよりはるかな世界へといざないます
もしかすると私が彼女を呼んだのかも
私はそこにとんで行きたかったのだから
けれど、そのまえに……

彼女はいってしまった
私はまたとべなかったのです
いつも前戯が長すぎてとべない
やはり私にはひとつひとつそろそろ殻を破っていくしかないの
　でしょうか

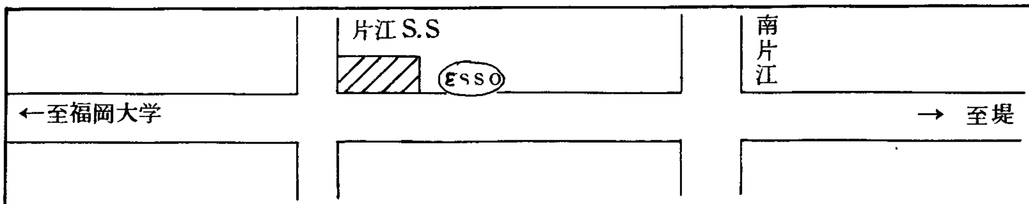
でも翔んでみたいのです
はたちの記念としても

大空を見上げると
彼女がはるかかなたに消えてゆきます

一度クラブの練習をやってみて

法学部一年　松尾幹雄

大学のクラブに入って、最初の練習をやってみて、「やはり高校とは段違いだな」ということでした。僕は大学のクラブがあるまで高校で一応三年間書道をやったことだし、大学といって特別の事をやる訳でもないから、という安易な気持がありました。しかし、その気持を持っていたことが、今、とても恥ずかしく思います。練習の時のみんなの姿、挨拶、全々違うんですね、「高校とは」という訳で今まで改まった心は、初めからやり直そうということです。俺は高校時代書道をやってみていたんだというではなく、今から初めるんだと、だから本当に他の一年生に腕では劣っても、気持では負けないぞ、という気持で卒業するまで一生懸命自分を試してみたいと思います。



朝日石油㈱片江S.S

TEL (801) 0808
(862) 1030

額・表装一式

菊 池 晩 香 堂

福岡市中央区六本松3丁目12－24

TEL 092－741－0897

綜合不動産センター

油山地所

福岡市西区友丘2丁目4番32号

TEL 871－0237

《新発売》

フジサワ

さわやかな花の香り3種類。
(クチナシ)(ローズ)(キンモクセイ)の3種類。甘くさわやかな香りが、お部屋いっぱいに……

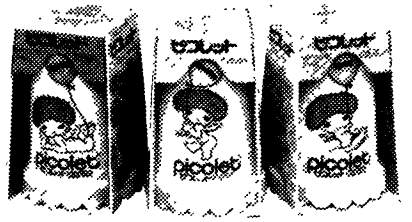
吊り下げることもできます。
据置きだけでなく、吊り下げタイプにもなりますので、どんなお部屋もOKです。

香りは1～2カ月持続します。
当社独自のゲルタイプですから、安定した香りの発散で、普通1～2カ月持続します。

軽便な紙質の可愛いい容器です。
紙質のため、ご使用後の処理も簡単。しかも香りのマスコット《ピコちゃん》が、可愛さをふりまきます。

香りのルーム・アクセサリーに。
玄関／勉強部屋／洗面所／病室…マイ・カーの中にまで、広く使えます。

(小売価格340円)



花の香りの
芳香防臭剤
ピコレット®
(クチナシ) (ローズ) (キンモクセイ)

O・Bと現役より、花束贈呈、またO・B書心会より記念品、並びに現役部員から赤木石掃先生直筆の点画が送られた。それに対して、古田先生が、今までを振り返ってみて、心温まる楽しい十六年間であったと御礼の言葉を返された。

全員で肩を組んで福岡大学校歌を斉唱し、その後、赤木先生の音頭で、古田先生の今後の御健康を祈って万歳三唱を行なわれ、O・Bと現役部員の拍手の中、古田先生と御夫人を送り出した。

「今後の古田先生と御夫人に栄光あれ！」

このパーティーが無事終えた事も、諸先輩方の御協力のおかげであると部員一同感謝してやみません。そして、この機会にO・Bと現役部員の交流が深まったことは、大変有意義であったと思います。

春季合宿報告

昭和五十三年二月九日より、大学は春休みに入り、一般学生は帰省、あるいはアルバイトに励むことであろうが、我々書道部は、年間行事の中でも二本柱の一つである春季合宿を、二月十三日から十七日まで四泊五日かけて、四十一名の参加のもと、瀬戸内海に浮ぶ自然に満ちた江田島青年の家で行なった。

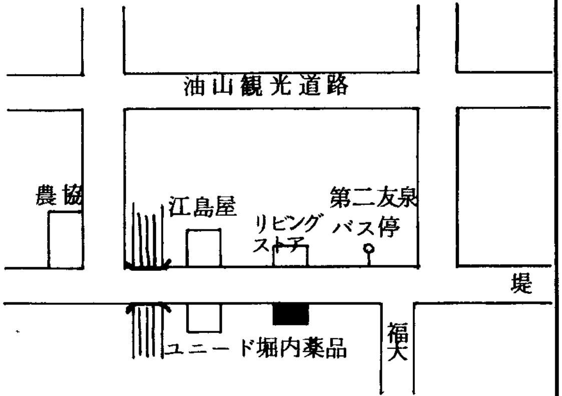
この合宿は討論中心であり、個人、学年としての一年間の反省を踏まえた上で、また、一年間で蓄積された諸問題を解決し、それでは、本来のサークルはどうあらねばならないかなど（理想像）についてまで進展さ

ろばた焼　桝

TEL　863－2828 昼
862－1010 夜

漢方皮膚病相談

漢方皮膚病相談
堀内薬品



西区友丘2丁目10番1号

TEL　863－6116

せ、基礎を造った上で、さて四月から、個人として、また学年として、具体的にどういう行動を取って行かなければならないかについてまで、討論を進めた。

全体的な反省として出たのは、個人個人が消極的な態度でサークルに臨んでいた為、挨拶の不徹底、けじめのなさなどに大きな影響を及ぼしていたと言えよう。また、四月からの具体的な行動であるが、サークル運営、部員間の交流の中心的な場所である部室に積極的に足を向け、先輩、同輩、後輩との会話を持とうなど具体的な意見が出された。

このような討論の合間、二月十四日の第三・四研修は、海の自然の中でカッター訓練を行なうことによって心身を鍛え、連帯感を高めようという目的のもと行なった。季節的には、まだ肌寒く、海から吹く潮風は、肌を切る寒さであった。全長十メートルはあろうカッターを十二名のクルーでこぐのである。それにオールの重さが一本八十キログラム、三十分もこげば自然に汗がにじんでくる。潮風も快い風となるこの研修は、最後の全体反省の時にも、全員の口から「カッター訓練は、すばらしかった。」という言葉が出たくらいすばらしく、有意義な研修であり、また、これにより、団体で何かをやる時には、いかに、一人一人の力というものが必要になってくるかということを再認識させられたものであった。また、雪の中での古鷹山登山、ソフトボールと部員相互の親睦が大いに計れたと確信する。

最後に、新しい試みとして二、三月の二カ月のブランクを埋めるべく、四月からの個人として、学年としての具体的なサークルに於けるかかわり方などをレポートにして提出してもらったのであるが、その気持ちが忘れがちになっているのではないだろうか？

もう一度、個人個人、春季合宿を振り返っても良い時期に来ているように感じられる。

今後のサークルへの積極的な参加を期待するものである。

福岡大学書心会規約

第一章　総　則

第一条　本会は福岡大学書心会と称する
第二条　本会は事務室（本部）を福岡大学書道部内に置く。
第三条　本会は支部を置くことが出来る

第二章　目的及び事業

第四条　本会は会員相互の親睦融和を図り、書道文化の普及向上に努めると共に福岡大学書道部活動の後援を行い、以って斯道に貢献する事を目的とする。
第五条　本会は前条目的達成の為次の事業を行う。
一、書道の振興に関する事業
一、書道に関する研究物、機関誌等の刊行
一、関係諸団体との親睦及び連絡提携
一、各種展覧会出品
一、其の他前条目的達成の為必要と認めた事業

第三章　組　織

第六条　本会正会員は福岡大学書道部員として登録をなし卒業をした者を以って構成する。但し原則として二年以上在籍したものとする。但し、強制するものではない。

第四章　役員及び機関

第七条　本会は目的達成の為次の機関を設置する。
一、役員総会
一、役員会
第八条　会員総会は本会の最高議決機関である。
第九条　会員総会は次項の場合、会長が随時これを招集する。
定例会員総会（年一回）
会長又は役員会の三分の一以上が討議する事項を提示し必要と認めた場合。
第十条　会員総会は会員の過半数以上の出席を以って成立する。
第十一条　総会の決議は出席会員の過半数以上の賛成を必要とし同数の場合は議長がこれを決定する。
総会出席に委任代理を認める。
第十二条　総会議長は書心会会長がこれにあたる。
第十三条　役員会は本会の執行機関である。
第十四条　本会役員は次の役員を置く。
会長（一名）、副会長（一名）、会計（一名）、評議員（若干名）
以上役員の任期は二年間とする。
第十五条　本会事務所に事務室を置く。
事務室長を福岡大学書道部役員に委嘱する。
第十六条　役員会の決議は総会に準ずるものとする。
第十七条　会計年度は四月一日より始まり翌年三月三十一日に終る。

第十八条　本会会費は正会員総会に於て決定する。

第十九条　会員の収支状況は総会、役員会に於て要求有り次第会計報告しなければならない。

第二十条　会計は毎年度の終りその年度の決算報告をしなければならない。

第二十一条　本会は福岡大学書道部の併置機関であり福岡大学書道部と提携し指導、賛成、賛助する。

第二十二条　本規約改正は総会に於て出席の会員の三分の二以上の賛成を必要とする。

第二十三条　本規約は昭和三十八年四月一日より施行する。

書道部規約

第一章　名称及び目的

第一条　本部は福岡大学学術文化部会書道部と称し、本学学生による書道愛好者の団体である。

第二条　本部は部員相互の親睦融和をはかり、人間形成を目指すと共に書道文化の普及、書技の向上を目的とする。

第三条　本部は前条目的を達成するために次の事業を行なう。

一、書道に関する事業

一、書道に関する調査研究並びに機関誌などの刊行

一、関係団体との親睦ならびに連絡提携

一、各種展示会出品

一、その他前条目的達成のため必要と認めた事業

第二章　組　織

第四条　本部は講師及び部長各一名を置く。

第五条　本部は幹事、副幹事、会計、企画、庶務、渉外、その他必要とする役職を置き、本部を代表する。

第六条　本部は次の機関を置く。

一、役員会

一、部員総会

一、O・B会、但しO・B会規約は別に定める。

第三章　役員会

第七条　役員会とは、部の円滑なる運営を期するための機関である。

第八条　本会は原則として、第五条に基づく役員によって構成される。但し、第五条に基づく役員以外であっても幹事が認めた場合には、本会に出席することが出来るが議決権はないものとする。

第九条　本会は幹事によって召集され代表される。

第十条　本会は毎月一回以上開くことを原則とする。

第十一条　本会の議決は、部員総会の決定を妨げるものではない。

第四章　部員総会

第十二条　本会は本部の最高議決機関である。

第十三条　本会は本部の部員によりこれを構成する。

第十四条　本会は必要に応じてこれを開き、幹事がこれを召集する。

第十五条　本会の議長は原則として、幹事がこれを兼務する。

第十六条

一、本部会は部員の過半数を以って成立する。

一、本部会の議決は出席者の過半数の賛成を必要とし、可否同数の場合、幹事がこれを決定する。

但し、出席者の過半数の賛成で重要事項とし、その決定には出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

第十七条　本部会不成立の際、出席者の三分の二以上の賛成を以って仮議決することができる。但し、

一、仮議決については事後部員総会に於いて過半数の承認を必要とする。

一、重要事項は仮議決することはできない。

第五章　役　員

第十八条　役員構成は第五条に同じ。

第十九条　第三条につき、外部関係諸団体へ役員を派遣することができる。

第二十条　幹事は本部を代表し、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその職務を代行する。

第二十一条　本部の役員改選は選挙制にし、これを重要事項と認め部員の無記名投票による選挙を行なう。

但し、委任状は認めるが、委任の方法は年度によって異っても良いものとする。

第二十二条　本部の役員の任期は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

但し、役員改選後、翌年三月三十一日までは代行期間とし、その責任は新旧役員の連帯責任とする。

尚、欠員が生じた場合これを補充する。

第二十三条　役員改選は原則として十月に行なう。

第六章　役員の職務

第二十四条　役員の職務は次の通りである。

一、幹事は部務を処理し、部を統括する。又、部の代表責任者であり、その責任を学術文化部会と部全体に負う。

一、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその任務を代行する。又、福岡大学書道部ＯＢ会の事務を担当する。

一、会計は部費徴収並びに部費予算に関する収支の記録決算書を作成。

一、企画は第一章第二条に定められた本部の目的にそって諸活動を企画する。

一、庶務は本部の活動に必要な諸事務を行ない、資料の徴収保管をなし、機関誌の発行を行なう。

但し、機関誌の発行は年一回とする。

一、第五章第十九条に基づく役員は、本部関係諸団体との親睦融和を図り部の向上を目指す。

第七章　会　計

第二十五条　本部の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第二十六条　本部の部費及びその他の所定納入金については、前年度末に部会に於いて決定しなければならない。

第二十七条　会計報告は会計が行なう。又、部員の要求に応じて会計簿を公開し、年一回決算報告書を作成し、これを報告する。

第八章　部員の権利義務

第二十八条　本部の部員は次の権利を有する。

一、本部のあらゆる活動に参加し、人間形成の場として利用すること。
一、本部の部員総会に出席し、その議決に参加すること。
一、本部に於ける選挙権、被選挙権を有する。
一、本部の備品及び図書を利用すること。

第二十九条　本部の部員は次の義務を負う。
一、部員は部員総会に出席すること。
但し、やむなく欠席する者は事前に欠席届を幹事に提出しなければならない。
但し、欠席届提出者についてはこの限りではない。
一、部員は部費その他の所定納入金を定期に納入すること。
一、本部の規約に従うこと。

第九章　入部・退部

第三十条　本部の入部は年度始め募集することを原則とし、学文会登録及び入部金納入を以って部員とする。

第三十一条　本部の退部は書面を以って幹事に願い出て、役員会の承認を得、部員に通達する。
但し、退部を希望する者は、その在籍期間までの所定の納入金を完納する。

第十章　罰　則

第三十二条　書道を研究する熱意なく本部の名誉を汚したる者、部活動を理由なくして一ケ月以上怠った者。又、部の秩序を乱す者は部より除名する。

第十一章　規約改正

第三十三条　本部規約改正の発議は部員総会に於いて部員の四分の一の同意により総会の議決を経て行なわれる。
尚、改正においては、本部員の三分の二以上の出席を必要とし、その出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附　則

附一　本規約は、昭和三十五年十一月より実施、昭和四十五年四月一日改正。

和洋紙・板紙・片面段ボール・卸商
トイレットペーパー・タオルペーパー

有限会社 遠藤和洋紙店

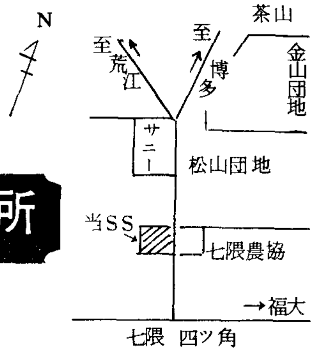
福岡市中央区今泉1丁目13番11号　TEL 751−6831(代)

安全点検から車検まで
車の事ならすべておまかせ

三菱石油特約店

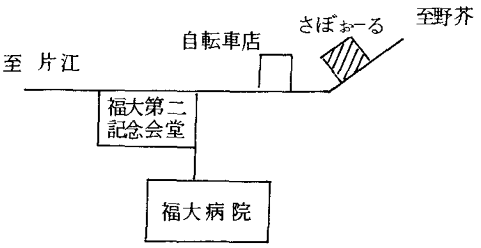
金商石油サービス(株)金山給油所

学生の方は、お徳な現金割引カードも有ります。
学生証を見せて下さい。



スナック

さぼぉーる



営業時間
PM 6:00 ~ AM 1:00

福岡市西区梅林1−4
TEL 863−5595

学生さん大歓迎!

珈琲 **グレコ**

福大小松ヶ丘

でんわ　863－2563

高級中国料理 **香港飯店** ご存じですか？

御家族
お友達　のグループでぜひ一度北京料理を御賞味下さい。

o

いらっしゃいませ

味で自慢の店です一度食べれば二度食べたくなる店です。
ぜひ御来店御試食下さい。

天神ビル地下1階　（地下街から西W9エスカレーター上る）
TEL　751－5542

書道用具専門店

雲峰堂

（書道美術社）

〒812　福岡市博多区下川端町6番113号
TEL　281－1550

GS タカハシ

〒810　福岡市中央区天神3丁目10－10

―編集後記―

福岡大学書道部も誕生して十八年目を迎える事になりました。

今年もこうして「書心」「荒鷲」の合同機関誌を発刊できますのも、ひとえに諸先輩方をはじめ、小西新部長、赤木先生方の暖かい御支援と御協力の賜であると、深く感謝しております。

この発刊により、部員個人個人の相互理解をした上での連帯感、また書道部員としての自覚の再認識を計れると確信しております。

尚、発刊に際して、御協力下さった多くの方々に対して、この紙面をもって深くお礼申し上げます。

第十九号「荒鷲」
第九号「書心」
合同機関紙

福岡大学学術文化部会 書道部
福岡大学書道部O・B 書心会

昭和五十三年七月 発行

発行責任者 大山一則
編集責任者 河野龍二
松田一寿

発行所 福岡大学学術文化部会書道部
〒八一四 福岡市西区七隈十一番地
電話 八七一―〇四七二

印刷所 川島弘文社